

1. 広場とは？（知見と事例の整理）

1. 広場とは？（知見と事例の整理）

本章では、広場の定義や評価の観点、設計上の要点を明らかにするため、既往の文献の整理を行った。文献整理では特に、「整備手法」に重点を置いて、「広場の立地・周辺環境」や「空間・配置デザイン」に関する知見を多く整理した。

また、国内での実際の広場について、地方自治体へのアンケートや観測調査をもとに、整理を行った。整理は、文献整理と対応した視点「立地・敷地形態上の特性」、「周囲との関係、空間構成」、「広場の使われた方」で行い、さまざまなタイプの広場の実態を明らかにした。

1-1. 文献整理

(1) 文献収集の目的と考え方

- 広場等空間に関する観測調査の実施および評価、整備・活用方策に関する手引き作成に向けて、広場の評価・整備に関する既往の知見を収集・整理する。
- 広場等の空間評価、整備手法、推進体制に関して、国内及び国外から100文献余りを収集し、そのうち、代表的な30文献について以下に示す項目で整理した。

整理の項目

「評価手法」について

- 空間の質・・・広場空間の居心地の良さ、雰囲気、美しさなど
- 利用・・・利用者の多様性、利用人数、利用時間など
- 波及効果・・・広場空間が与える広場周辺への波及効果

「整備手法」について

- 立地／周辺環境・・・広場のアクセシビリティ、周辺店舗との関係性など
- 空間／配置デザイン・・・広場の空間構成、各要素のレイアウトなど
- 要素デザイン・・・各要素（椅子・テーブルなど）のデザイン

「推進体制」について

- 整備体制・・・整備時の推進体制、プロセスなど
- 組織づくり・・・広場に関わる活動団体のつくり方
- 管理・運営・・・管理・運営手法について
- イベント・・・イベント促進、イベント成功のポイントなど



図 1-1-1 収集文献

(2) 文献一覧

表 1-1-1 文献一覧

No	媒体	名称	著者名等	翻訳	出版年	分析の特徴									
						評価手法			整備手法			推進体制			
						空間の質	利用	波及効果	立地・周辺環境	空間・配置デザイン	要素デザイン	整備体制	組織づくり	管理・運営	イベント
1	書籍	市民が関わるパブリックスペースのデザイン	小林正美	-	平成27年							○	○		
2	書籍	SQUARES	Sophie Wolfrum	-	平成27年				○	○					
3	その他	賑わいづくり施策発見マニュアル	国土交通省	-	平成26年		○	○							
4	書籍	広場のデザイン	小野寺康	-	平成26年					○	○				
5	書籍	コンパクト建築設計資料設計修正 [都市再生]	日本建築学会	-	平成26年					○					
6	書籍	Place-Keeping: Open Space Management in Practice	Nicola Dempsey, Harry Smith, Mel Burton	-	平成26年	○							○	○	
7	書籍	にぎわいの場 富山グランドプラザ	山下裕子	-	平成25年			○	○				○	○	○
8	書籍	パブリックライフ学入門 (HOW TO STUDY PUBLIC LIFE)	Jan Gehl, Birgitte Svarre, Karen Ann Steenhard	鈴木 俊治, 高松 誠治, 武田 重昭, 中島 直人	(平成28年) 原著: 平成25年		○			○					
9	書籍	パブリック空間の本	今村 雅樹, 高橋 晶子, 小泉 雅生	-	平成25年							○		○	
10	書籍	東京の広場を楽しくする～民間公開空地POPST108ヶ所の魅力の格付け～	森記念財団	-	平成23年	○	○		○	○					
11	その他	防犯まちづくりデザインガイド～計画・設計からマネジメントまで	国立研究開発法人 建築研究所	-	平成23年				○	○			○	○	○
12	書籍	人間の街: 公共空間のデザイン (Cities for People)	Jan Gehl	北原 理謙	(平成26年) 原著: 平成22年	○	○			○					
13	書籍	Public Places Urban Spaces	Matthew Carmona, Tim Heath, Taner Oc, Steve Tiesdell	-	平成22年	○			○	○	○				○
14	書籍	Public Space: The Management Dimension	Matthew Carmona, Claudio de Magalhes, Leo Hammond	-	平成20年	○							○	○	
15	書籍	公共空間の活用と賑わいまちづくり?オープンカフェ/朝一/屋台/イベント	榎原 修, 加藤 源, 北原 理謙, 都市づくりパブリックデザインセンター	-	平成19年				○	○	○		○	○	○
16	書籍	Urban design: street and square	Moughtin, Mertens	-	平成19年				○	○	○				
17	その他	Spaceshaper: A user's guide	CABE SPACE	-	平成19年	○	○	○							
18	論文	オープンスペースにおける着座滞留と空間構成に関する基礎的研究、その1、その2	坂口 真弓, 坂井 延, 有馬 隆文, 鶴崎 直樹	-	平成18年					○					
19	その他	Safer Places? The planning System and Crime Prevention	Office of the Deputy Prime Minister (UK)	-	平成16年				○	○	○			○	
20	書籍	オープンスペースを魅力的にする	プロジェクト・フォー・パブリックスペース 加藤 源, 服部 圭郎, 鈴木 俊治, 加藤 源	(平成17年) 原著: 平成12年	○	○	○								
21	書籍	環境と空間	高橋 謙志, 長澤 泰, 西出 和彦	-	平成9年					○					
22	書籍	広場の空間構成	三浦金作	-	平成5年				○	○					
23	書籍	人間都市論	梶野桂人	-	平成2年					○					
24	書籍	屋外空間の生活とデザイン (Life Between Buildings: Using Public Space)	Jan Gehl	北原 理謙	(平成2年) 原著: 昭和62年	○				○					
25	書籍	感応する環境(RESPONSIVE ENVIRONMENTS)	I.ベントレイ, A.アルコック, P.ミューラン, S.マッグリン, G.スミス	佐藤 圭二	平成23年					○	○				
26	書籍	The Social Life of Small Urban Spaces	William Holly Whyte	-	昭和55年	○	○	○	○	○	○				
27	書籍	バタン・ランゲージ環境設計の手引	Alexander Christopher, Sara Ishikawa, Murray Silvertein	平田 翰那	(昭和59年) 原著: 昭和52年				○	○					
28	書籍	外部空間の設計	戸原義徳	-	昭和50年					○	○				
29	書籍	かくれた次元	Edward Twitchell Hall	日高 敏隆, 佐藤 信行	(昭和45年) 原著: 昭和41年					○					
30	書籍	広場の造形(City Planning According to Artistic Principles)	Camillo Sitte	大石 敏謙	(昭和58年) 原著: 明治22年					○					

(3) 整理概要：評価手法

①評価基準：活動の質

- 任意活動、社会活動が多く発生するよう空間の質を高める。

屋外活動の三つの型（屋外空間の生活とデザイン,1987）
思い切って単純化すると、公共空間で行われる屋外活動は、三つのタイプに分けることができる。必要活動、任意活動、社会活動がそれである。この三者は、物的な環境に対して、それぞれ大きく異なる要求を持っている。

必要活動（屋外空間の生活とデザイン,1987）
必要活動は、学校や仕事に行く、買物をする、バスや人を待つ、使い・走りをする、郵便を配達するなど、多かれ少なかれ義務的なものを含んでいる。屋外空間の質が貧しいときには、必要活動しか起こらない。

任意活動（屋外空間の生活とデザイン,1987）
任意活動はそうしたい気持があり、そして時間と場所が許すときに参加する、そのような行為である。このタイプには、新鮮な空気を求めて散歩をする、にぎわいを楽しむために立ち止まる、腰かけて日光浴をするといった活動が含まれる。
これらの活動は、屋外の条件が最適なとき、天候と場所がふさわしいときにだけ行われる。

社会活動（屋外空間の生活とデザイン,1987）
社会活動は、公共空間に他の人びとが存在することを前提にした活動である。そこには、子供たちの遊び、あいさつと会話、各種のコミュニティ活動、そして最後に、もっとも広く見られる社会活動、すなわち他の人びとをただ眺め、耳を傾けるという受け身のふれあいが含まれる。
街の街路や都心部では、社会活動は、たかさんの見知らぬ人を見聞きする受け身の接触が大半を占め、概してもっとも表面的なものになるだろう。しかし、この限られた活動でも、十分な魅力を持っている。

②評価基準：活動の量

- 生き生きとした魅力的な街を目指すのであれば、滞留の機会と魅力を重視することが必要不可欠である。

・都市の質の改善（人間の街,2010）
多くの場合、質を高めることの方が、すなわち来訪者数を増やすより、そこで多くの時間を過ごす要求を高めることの方が容易で効果大きい。また、数と量を増やすより、時間と質を高める取り組みの方が、日常生活にとっても都市の質を改善するのに役立つことが多い。

・滞留が長くなると街が生き生きする（人間の街,2010）
歩行と滞留が結びついた広場では、通過するだけの広場に比べて10～20倍、時には30倍もの活動が記録されている。生き生きとした魅力的な街を目指すのであれば、滞留の機会と魅力を重視することが必要不可欠である。

評価指標

・ 空間の質

快適性とイメージ：チェックすべき事項（オープンスペースを魅力的にする,2000）

- ・ 男性より女性が多いか？
- ・ 人々は写真を撮っているだろうか？
- ・ 歩行者が使っている場所を車が占領していないか？

社会性：チェックすべき事項（オープンスペースを魅力的にする,2000）

- ・ グループで来ているか？
- ・ 互いに話し合っているか？
- ・ 笑っているか？
- ・ 人々はその場所をいつも好んで使っているように見えるか？
- ・ 人々は顔、あるいは名前を互いに知っているか？
- ・ 普段見かけない人同士が互いにアイコンタクトをとっているか？

・ 利用

使い方と活動：チェックすべき事項（オープンスペースを魅力的にする,2000）

- ・ 多くの人々がその場所を使っているか、または少ないか？
- ・ さまざまな年代層の人々に使われているか？
- ・ 活動の種類はどのくらいあるか？

・ 波及効果

近隣の人の利用（オープンスペースを魅力的にする,2000）

- ・ 隣接する建物の居住者、就業者がその場所を使っているか？

・ 管理状態

チェックすべき事項（オープンスペースを魅力的にする,2000）

- ・ ゴミが散乱しているなど、管理が行き届いていない。
- ・ 「好ましくないもの」が場所を占拠している。
- ・ 壊れた窓、落書き、破壊行為など、セキュリティ上の問題がある。
- ・ 人々はゴミを見かけたら拾っているか？

出典

- 12. 人間の街, Jan Gehl, 2010
- 20. オープンスペースを魅力的にする, プロジェクト・フォー・パブリックスペース, 2000
- 24. 屋外空間の生活とデザイン, Jan Gehl, 1987

(3) 整理概要：整備手法

空間の構成

- ・ 広場の中央は、人の移動や各種アクティビティのための空間として重視する。

・ 空間の中央 (広場のデザイン,2014)

中央にあるその噴水や高木を、中心からわずかにシフトしてみるといい。途端に空間に「動き」が出てくる。パブリックスペースのデザインにおいては、造形が主役になるのではなく、場の上で人間が主体に浮かび上がることが重要だ。モノではなく、人間活動(アクティビティ)を重視したい。

・ 広場の中央 (パタン・ランゲージ,1977)

公共広場、中庭、小さな共有地などには、そこを横切る自然な道筋は残し、ほぼ中央に何かー噴水、立木、立像、腰掛つきの時計塔、風車、演台などーを設けること。それを、広場に揺るぎない生命力をもたらし、人びとを中心に引きつける物に仕立てること。本当の中心に置きたいという衝動を抑えて、人の道筋のあいだに正確に配置すること。

- ・ にぎわいを創出するには、ある程度囲まれた領域性が必要である。

・ 領域性の優れた空間 (広場のデザイン,2014)

にぎわいを創出するには、ある程度囲い込まれた領域性が必要だ。「結界」や「見え隠れ」でもいい、何らかの形で領域性を形成しないと、やはり「気が抜けて」しまうのであって、そこに活力は生まれないのである。

・ 囲われた小さな場所 (パタン・ランゲージ,1977)

公衆の集まる場所は、小さな人だまりー外縁部の部分的に囲われた小さな場所ーでとり囲むこと。そこは人の経路から外れた場所であり、人びとが立ち止まり、その活動に自然に係わり合えるような場所である。

要素間の関係性

- ・ 座るのに適した場所の条件は、背後を保護されたエッジ(壁など)に位置し、良い眺め(人通りなど)があること。その上、日差し、風、騒音などの環境条件に優れていること。

・ 座るのに適した場所 (人間の街,2010)

座るのに適した場所の一般的条件は、快適な局所気候を備えていること、背後を保護されたエッジに位置していること、よい眺めがあること、騒音が少なく会話が可能で、空気が汚れていないことであった。なかでも眺望が特に重視されていた。

・ 休む (人間都市論,1990)

人が休むことの出来る設備とその空間が必要である。この空間は、人の流れから少しはずれた所で、しかしあまり隔離されていない状態で、できれば人通りが眺められるような条件で設定されていることが望ましく、有効である。その上、夏には緑陰が、冬には陽射しが欲しいことは言うまでもない。

参考

- ・ 滞留発生条件 (オープンスペースにおける着座滞留と空間構成に関する基礎的研究,2006)
 - 1) 入り口からの距離が近いこと
 - 2) 社会距離内歩行者数が多すぎないこと
 - 3) テイクアウト可能な店舗がオープンスペースに面している場合、店舗に近いこと

各要素の配置

- ・ 基本席と補助席を組み合わせて、十分な滞留空間を確保する。

・ 基本席と補助席 (人間の街,2010)

街に快適で多様な座る場所を用意するには、基本席と補助席をうまく組み合わせる必要がある。補助席の利点は、階段や植木鉢の基壇のように本来の役割を持っていて、必要なときに座る場所に利用できる点である。

・ ピアノ効果 (人間の街,2010)

もうひとつの特徴的な行動は、エッジにある家具、隅、柱、窪みなどに身を寄せる「ピアノ効果」である。このような場所は身を置く場所になり、単なる壁際の場所より境界がはっきりした場所になっている。建物外壁のディテール、設置物、備品なども、公共空間のエッジ部分で身を寄せるための拠り所を提供してくれる。

- ・ 良好な会話のために座席間隔は、**個体距離 (0.45~1.2m)** と **社会距離 (1.2~3.7m)** を目安に調整する。

・ 適度な空間量 (人間の街,2010)

人びとのあいだのコミュニケーションには適度な空間量が必要である。街路や広場では、近づき、身を寄せ、人混みを縫って動き、最後は優雅に退場することによって、それぞれの振付けをみごとに踊りきることができる。良好な会話には一定のゆとりが必要である。それは何メートルもの距離ではない。社会距離と個体距離を調整するちょっとした空間である。

・ 個体距離 (45センチ~1.20メートル) (人間の街,2010)

個体距離 (45センチ~1.20メートル) は親しい友人や家族間のふれあい距離である。ここでは大切な話題について会話が行われる。食卓を囲む家族は個体距離のよい例である。

・ 社会距離 (1.2~3.70メートル) (人間の街,2010)

社会距離 (1.2~3.70メートル) は、仕事や休暇中の思い出の会話など、さまざまな種類の通常の「情報交換が行われる距離」である。コーヒータブルを囲んだ居間の家具配置は、この種の会話を反映した物的表現の好例である。

出典

4. 広場のデザイン, 小野寺康, 2014
12. 人間の街, Jan Gehl, 2010
18. オープンスペースにおける着座滞留と空間構成に関する基礎的研究, 坂口, 坂井, 有馬, 鶴崎, 2006
23. 人間都市論, 紙野桂人, 1990
27. パタン・ランゲージ, Alexander Christopher (他), 1977

(3) 整理概要：推進体制

整備体制・組織づくり

- ・ 市民、行政、専門家および関連団体代表者たちが連携して推進

・ 市民・行政・専門家の連携プロセス
(市民が関わるパブリックスペースのデザイン、2015)
2009年度の基本設計および2010年度の実施設計と並行し、NPO法人や行政が主催する「連続セミナー」「専門家会議」「市民ワークショップ」「推進会議」が有機的に開催され、セミナーによる意識下→専門家によるデザインの論議→市民の検証と選択→関係者の合意形成というプロセスが何回か繰り返され、大手前通りの景観に関するデザインの方向性、サンクンガーデンと眺望デッキのデザイン方針、広場の活用などの個々の課題が一つ一つ解決された。このように、市民、行政、専門家および関連団体代表者たちが連携し、一つの公共事業を市民に公開しながらダイナミックに検討して推進していく方法が、他に例をみない姫路ならではの画期的なプロセスであるといえよう。

- ・ 参加型の設計プロセスは、パブリック空間のパブリック性をより高めるための手法

・ 参加型設計プロセス (パブリック空間の本, 2013)
近年、空間のパブリック性もさることながら、これまで専門家や行政に任せきりであった設計や建設のプロセスを、エンドユーザーやステイクホルダーに開いていこうという試みである。
こういったプロセスを経ることでプロジェクトへの市民の参加意欲が高まり、自分たちのパブリック空間であるとの意識が培われ、竣工後のより積極的な運営へと繋がっていく。あるいは、その空間を利用するエンドユーザーの意見を反映することで、きめ細やかで使い勝手のよい施設整備が可能となる。参加型の設計プロセスは、パブリック空間のパブリック性をより高めるための手法といえよう。

管理・運営

- ・ 広場空間の管理・運営体制の一部に、地域の担い手を巻き込むことが有効

・ 地域のニーズに即した効率的な公共空間管理
(公共空間の活用と賑わいまちづくり、2007年)
臨機応変な管理を行う上では、管理機能の一部を実際に賑わい利用の運営等を行う地域の組織等に委任することが有効である。活用と維持管理をあわせて地域に委ねることにより、公共施設管理者の管理負担を軽減しつつ、地域のニーズに即したより適正な管理を実現することが可能となる。

・ インターンシップ研修
(にぎわいの場 富山グランドプラザ、2013)
事務所では広場運営の実態や楽しさを実体験していただくために「インターンシップ研修生」や、富山県庁の事業である「14歳の挑戦」の中学生を積極的に受け入れています。それは、未来を培っていく若者が運営に携わり、グランドプラザのファンになることで、将来の利用候補者になるのを期待しているからです。

- ・ 適正な使用料を徴収する

・ 占有料の徴収
(公共空間の活用と賑わいまちづくり、2007年)
例えば道路の余裕幅を活用してオープンカフェ等の設置を許可し、その対価として占有料を徴収することで施設管理者は財政収入を得ることができる。
また、こうした利用により、まちなか商業の活性化や観光客増といった経済効果が生まれれば間接的に税収の増加も期待できる。
これらの収入を活用し、まちなかの公共空間の適正な維持管理や、公共区間の一層の充実や質の向上を図ることが可能となる。

イベント活動

- ・ 公共空間でのオープンカフェなど、都市空間の魅力を活かした商業展開による、まちなかの魅力向上

・ 地域の経済活動の活性化
(公共空間の活用と賑わいまちづくり、2007年)
公共空間でのオープンカフェや街路市など、都市空間の魅力を活かした商業展開は、賑わいの演出による商空間としてのまちなかの魅力向上につながる。出展者にとっては商業機会の拡大になるとともに、その集客によって、周辺の商店街の売り上げへの波及効果も期待される。

・ 生活文化の創出
(公共空間の活用と賑わいまちづくり、2007年)
市民生活に溶け込んでいる欧米諸国のオープンカフェには、パリのように古くからまちに根付いた生活文化として受け継がれてきたものだけでなく、中心市街地の再生の取り組みの中での新たに導入されてきた事例も多い。我が国においても、都市の生活文化を創り出していくという視点を持ち、新たな利用形態を導入・育成していくことが大切である。

- ・ 常に「みる⇔みられる」の関係が重要

・ 「みる⇔みられる」の関係
(にぎわいの場 富山グランドプラザ、2013)
まちなか広場は、中心市街地の中心である超一等地にあるため、朝昼晩と時間帯ごとに様々な人が滞在しています。常に、自分以外の他者がいる場所であり、存在しているすべての人が、常にアクター(行為者)であり、ビジター(傍観者)です。つまり、その場所にいる全員が常に「みる⇔みられる」の関係上にいます。そして、すべてのアクティビティの現象が、広場を形成しているのです。そのため、様々なアクティビティのパフォーマンス性を高めるのが重要だと考えました。

出典

1. 市民が関わるパブリックスペースのデザイン、小林正美、2015
9. パブリック空間の本、今村 雅樹・高橋 晶子・小泉 雅生、2013
7. にぎわいの場 富山グランドプラザ、山下裕子、2013
11. 防犯まちづくりデザインガイド、建築研究所、2011
15. 公共空間の活用と賑わいまちづくり、篠原 修・加藤 源・北原 理雄、2007

1-2. 広場の事例収集

(1) 事例収集の視点

✓ 「より良く使われる」広場づくりに向けて、具体のデザインの前段階=広場整備検討の初期における留意点を整理するため、既存の広場の事例収集および調査を行う。

- ここでは、市街地における様々な広場がどのように整備され、どのように利用されているのかを整理する。
- 今後も、様々な事情により中心市街地に空地が出現することが多々あると思われる。また、まちの賑わいづくりのために歩行者が滞留できる場所のニーズは、ますます高まりつつある。
- 市町村で広場整備を検討する際に、「使われない広場」にならないよう、避けるべき失敗や成功のカギとなるポイントについて整理する。広場整備検討の初期に参照される有用な情報となることを目指す。
- なお、ここで取り扱うポイントは、立地特性や敷地形状の特性に応じた広場の機能設定の方法、基本的な空間構成の考え方など、プランニング段階での留意点を主なものとする。したがって、床面の素材、緑の配置、日照や夜間照明、ファニチャーのデザインなどのランドスケープ・デザイン的な要素については、守備範囲としない。
- ここで取り上げる広場は、必ずしも「良い整備事例」を意味するものではなく、今後も広場整備が行われるである「パターン」を説明するために、多様な立地、形態、機能の事例を収集することを目指した。

(2) 事例収集の方法

- 以下の手順で事例収集および整理を行った。

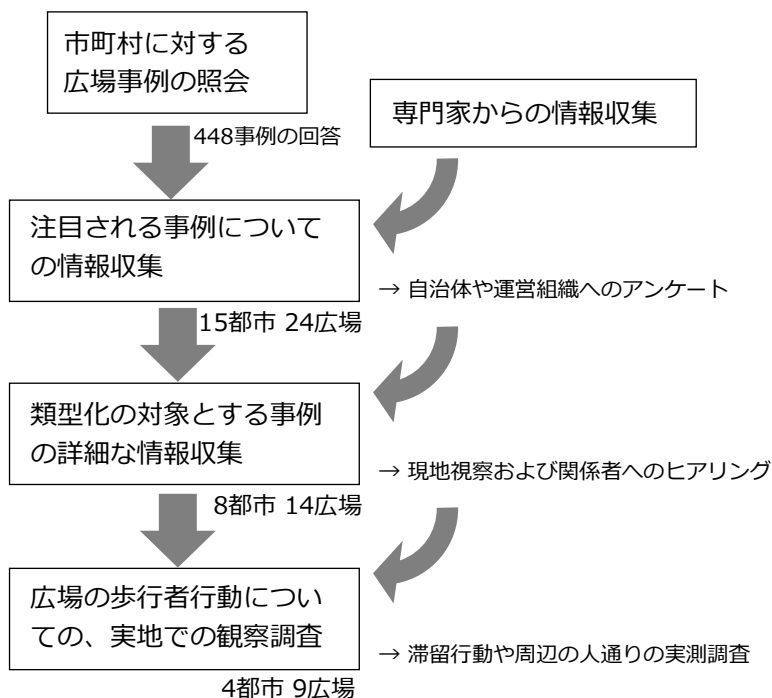
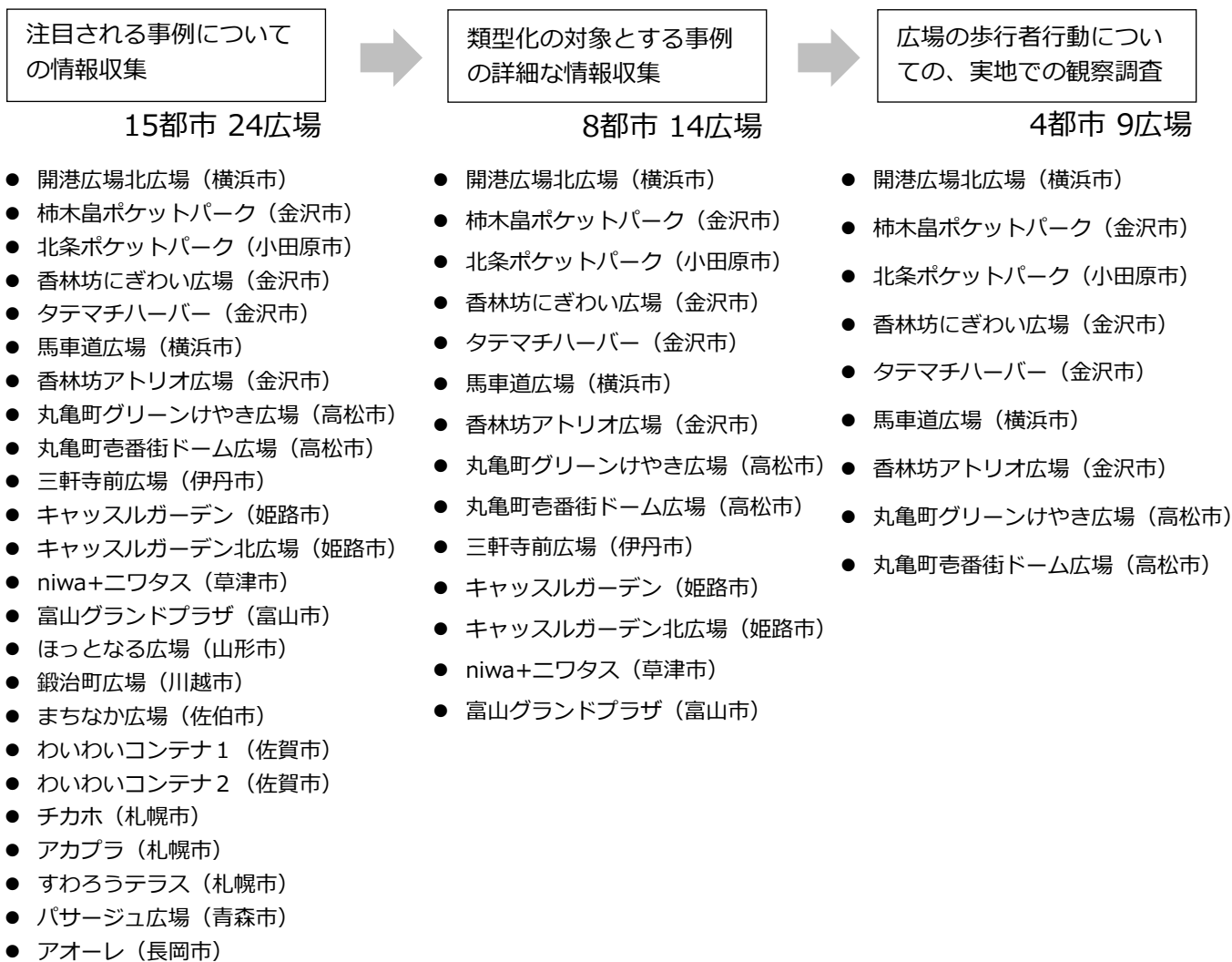


図 1-2-1 整理の手順

(3) 対象とした事例の一覧

- 以下、情報収集レベル（3段階）ごとに事例の一覧を示す。
- なお、詳細な情報収集を行った事例については、その成果を<事例シート>に事例ごとに整理して示す。



(4) 事例の観測調査

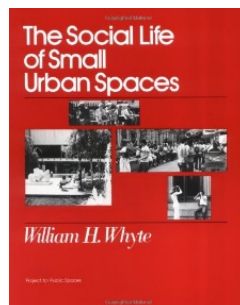
(a) 観測調査の考え方について

✓ **広場と周囲の主動線や建物との関係を明らかにするとともに、広場内の動線が通る移動空間と、休憩などのための滞留空間がどのような配置関係で存在しているのかに着目して調査を行う。**

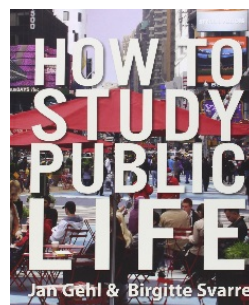
- 本調査では、広場の機能を評価するためのデータを得ることを目的に、広場における動線および静的行動の観測を行う。
- 主に、動線が通る場所と、滞留の場所の分布をみることによって、滞留空間の使われ方と、その空間的な特徴の関係を明らかにする。
- また、周辺の人通りレベルを観測することによって、広場と周囲の主動線との関係を明らかにする。
- 属性については、年齢、性別のデータも収集するが、特に、広場機能の評価に深く関係する「集団の大きさ」（一人なのか、二人なのか、あるいは何人かのグループか）に着目する。

(b) 参考となる文献、事例

- 広場における歩行者動線・行動の観測調査については、1980年に著されたWilliam H. Whyteによる「The Social Life of Small Urban Spaces」が有名である。その後、米国バークレーや、デンマーク・コペンハーゲンなどの実務家、研究者によって手法の発展が行われている。
- 最近では、Jan Gehlらによって、「How to Study Public Life」（2013）が著された。この中には、観測調査の考え方や、その理論的な議論の経緯がまとめられている。
- 実務においては、英国Space Syntax Limited社などが公共空間での観測調査結果を都市空間のデザインに活用している。これらは論拠に基づく（evidence based）アプローチとも呼ばれている。
- また、ニューヨークのタイムズ・スクエアの再生など、調査による知見を活かした人間のための公共空間づくり（デンマークJan Gehl事務所などによる）が各国で注目を集めている。



The Social Life of Small Urban Spaces,
William H. Whyte
(1990)



How to Study Public Life,
Jan Gehl & Birgitte Svarre
(2013)

図 1-2-2 文献イメージ

(c) 観測調査実施結果の概要

■ 金沢市（4広場）

- 実施した観測調査の概要を以下に示す。可視化した調査データについては、後出<事例シート>に広場ごとに示す。

<調査場所>

- A. 香林坊アトリオ広場
- B. 香林坊にぎわい広場
- C. 柿木畠ポケットパーク
- D. タテマチハーバー

<調査日時>

2014年11月29日(土)、30日(日)
の二日間 12:00~16:00

<調査結果>

約4,300人の行動を記録

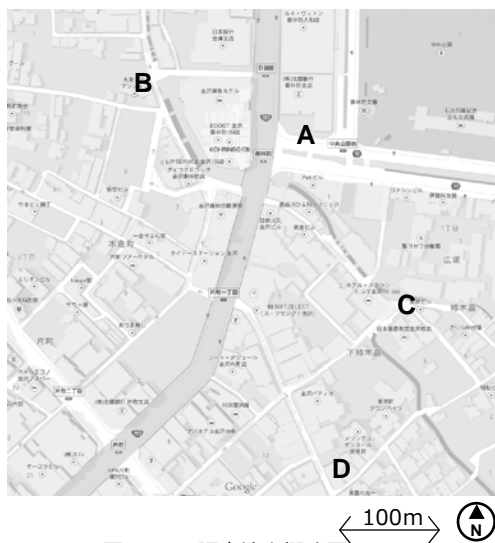


図 1-2-3 調査地点概略図

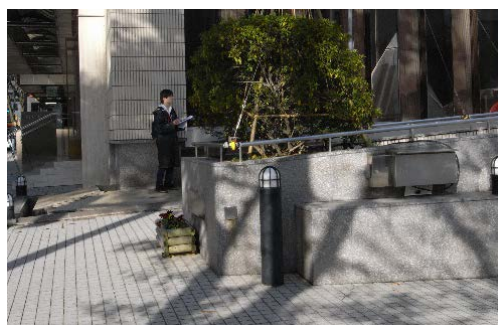


図 1-2-4 調査の様子

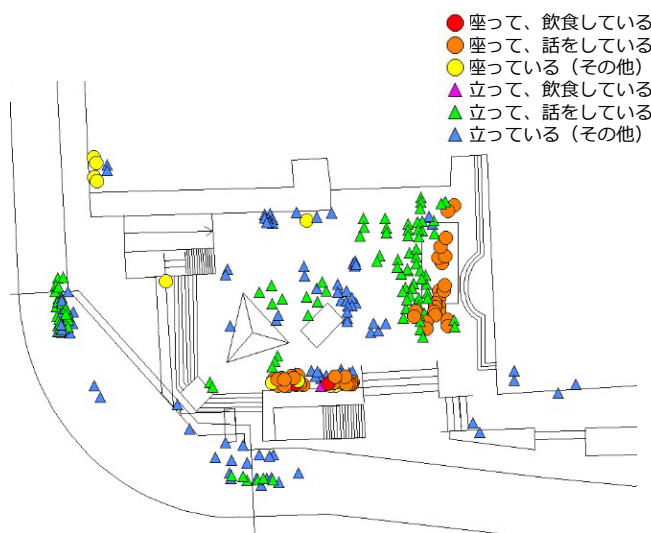


図 1-2-5 滞留行動の分布

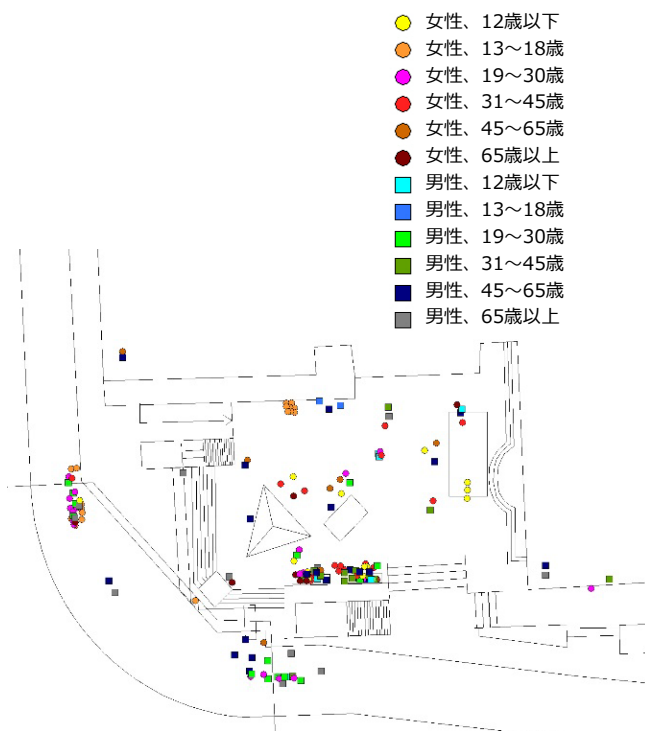


図 1-2-6 年齢・性別の分布

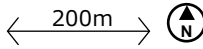
■ 横浜市（2広場）

開港広場北側



馬車道広場

図 1-2-7 調査地点概略図



<調査日時>

2014年12月13(土)、14(日)の二日間
12:00~16:00

<調査結果>

約1,180人の行動を記録



図 1-2-8 調査の様子

- 座って、飲食している
- 座って、話をしている
- 座っている（その他）
- ▲ 立って、飲食している
- ▲ 立って、話をしている
- ▲ 立っている（その他）

- 女性、12歳以下
- 女性、13~18歳
- 女性、19~30歳
- 女性、31~45歳
- 女性、45~65歳
- 女性、65歳以上
- 男性、12歳以下
- 男性、13~18歳
- 男性、19~30歳
- 男性、31~45歳
- 男性、45~65歳
- 男性、65歳以上



図 1-2-9 滞留行動の分布



図 1-2-10 年齢・性別の分布

■ 小田原市（1広場）

北条ポケットパーク



図 1-2-11 調査地点概略図



図 1-2-12 調査の様子

<調査日時>

2014年12月13(土)、14(日)の二日間
12:00~16:00

<調査結果>

約970人の行動を記録

- 座って、飲食している
- 座って、話している
- 座っている（その他）
- ▲ 立って、飲食している
- ▲ 立って、話している
- ▲ 立っている（その他）

- 女性、12歳以下
- 女性、13~18歳
- 女性、19~30歳
- 女性、31~45歳
- 女性、45~65歳
- 女性、65歳以上
- 男性、12歳以下
- 男性、13~18歳
- 男性、19~30歳
- 男性、31~45歳
- 男性、45~65歳
- 男性、65歳以上



図 1-2-13 滞留行動の分布



図 1-2-14 年齢・性別の分布

■ 高松市（2広場）



図 1-2-15 調査地点概略図

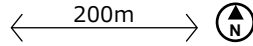


図 1-2-16 調査の様子

<調査日時>

2015年1月10(土)、11(日)の二日間
12:00～16:00

<調査結果>

約1,012人の行動を記録

- 座って、飲食している
- 座って、話をしている
- 座っている（その他）
- ▲ 立って、飲食している
- ▲ 立って、話をしている
- ▲ 立っている（その他）

- 女性、12歳以下
- 女性、13～18歳
- 女性、19～30歳
- 女性、31～45歳
- 女性、45～65歳
- 女性、65歳以上
- 男性、12歳以下
- 男性、13～18歳
- 男性、19～30歳
- 男性、31～45歳
- 男性、45～65歳
- 男性、65歳以上

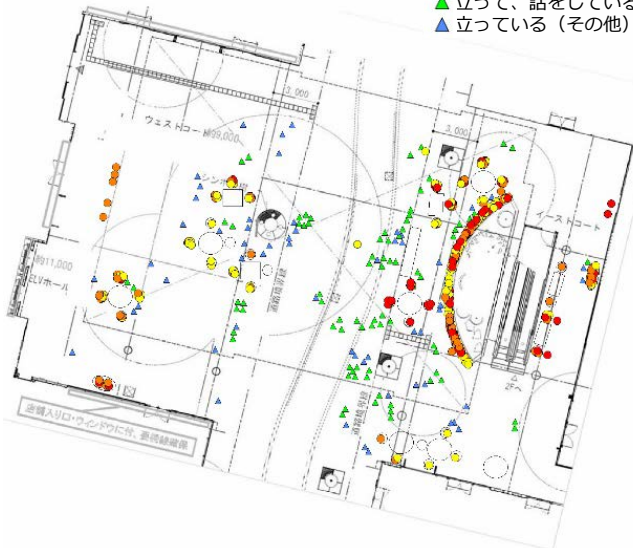


図 1-2-17 滞留行動の分布

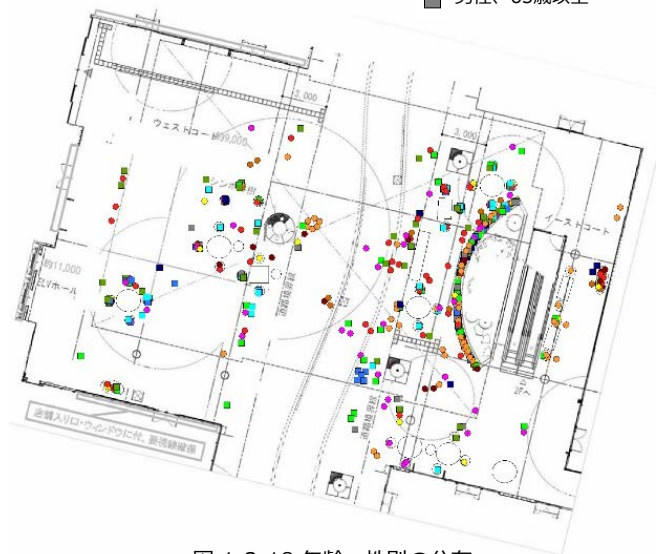


図 1-2-18 年齢・性別の分布

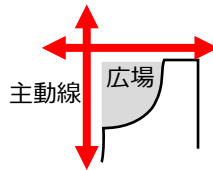
(5) 事例のタイプ分け

- 事例の特徴を精査する上で、**広場**と関係が強い周囲の「**主動線（歩行者流）**」と「**主施設（建物）**」に着目する。それらの広場との**位置関係**および**影響の強弱**によって、広場形状に関して、下記の5タイプに分類することとする。
- なお、当然ながら、**複数の型の特徴を併せ持つもの**や、**中間的なもの**も存在する。
- また、これら以外の類型（例えば「裏庭」タイプなど）のものも存在するが、わが国ではあまり一般的でないため、ここでは、取り上げないこととする。

広場形状からみた類型の一覧

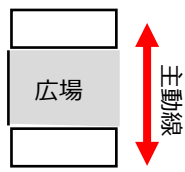
タイプA：角地型

→ 交差点の道路空間と建物との間の空間を広場化したタイプ



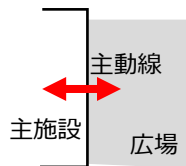
タイプB：動線導入型

→ 主動線沿いの空地などを広場化したタイプ



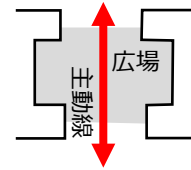
タイプC：施設前庭型

→ 主施設の出入の影響が卓越し、前庭として機能するタイプ



タイプD：動線貫通型

→ 施設に囲まれた広場を主動線が貫通しているタイプ



タイプE：動線交差型

→ 周囲に卓越した主動線はなく、周囲の多くの動線を繋ぐ場所となるタイプ

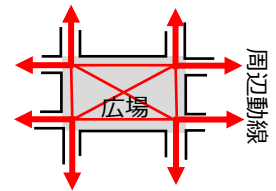


図 1-2-19 広場形状からみた類型の一覧

[事例シート]

◇ 事例シートの構成

<p>北条ポケットパーク</p> <p>3</p> <p>1. 立地、敷地形態上の特性</p>	<p>全公開</p> <p>敷地</p> <p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p>	<p>今この敷地</p>
<p>立地、敷地形態上の特性</p> <p>立地：北条市南町1丁目16-12番地</p> <p>面積：1,637.24㎡</p> <p>用途：雑種1種（商業1種）住居</p> <p>小中併立</p>	<p>2. 敷地周辺の状況</p> <p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>

<p>北条ポケットパーク</p> <p>3</p> <p>2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成</p>	<p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>
<p>敷地周囲との関係、広場内の空間構成</p> <p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>

<p>北条ポケットパーク</p> <p>3</p> <p>3. 広場の概況、使われ方の概観</p>	<p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>
<p>敷場の概況、使われ方の概観</p> <p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>

<p>北条ポケットパーク</p> <p>3</p> <p>4. 行動観測調査の結果</p>	<p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>
<p>行動観測調査の結果</p> <p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>敷地の概要</p> <p>敷地の位置</p> <p>敷地の形状</p> <p>敷地の利用状況</p> <p>敷地の利用状況</p>	<p>今この敷地</p>

1. 立地、敷地形態上の特性

- ・ 整備前の状態
- ・ 整備のきっかけ、ねらい
- ① 周辺土地利用の特徴
- ② 周辺の人通りの特徴
- ③ 敷地規模形状の特徴

2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成

- ① 広場の見つけやすさ
- ② 広場としてのわかりやすさ
- ③ 周囲の活動のしみ出し感
- ④ 広場への入り込みやすさ

3. 広場の概況、使われ方の概観

- 滞留しやすさや居心地、雰囲気
- 運営・管理主体
- 日常の利用形態について
- 運営に関する課題、今後の改善計画

4. 行動観測調査の結果

- (調査を行った9広場のみ)
- 周辺の人通りと広場の関係
- 滞留行動の特徴
- 属性、利用時間等についての傾向
- 利用状況から読み取れる課題について

図 1-2-20 事例シートの構成

◇ 事例一覧

表 1-2-1 事例一覧

	土地	位置づけ	タイプ	観測調査対象
1.開港広場北広場（横浜市）	公共	道路	A. 角地	○
2.柿木畠ポケットパーク（金沢市）	公共	道路	A. 角地	○
3.北条ポケットパーク（小田原市）	公共	道路	A. 角地	○
4.香林坊にぎわい広場（金沢市）	公共	市条例	B. 引込	○
5.タテマチハーバー（金沢市）	公共	市条例	B. 引込	○
6.馬車道広場（横浜市）	公共	市条例	C. 前庭	○
7.香林坊アトリオ広場（金沢市）	民間	公開空地	C. 前庭	○
8.丸亀町グリーンけやき広場（高松市）	公+民	道路+民有地	D. 貫通	○
9.丸亀町壱番街ドーム広場（高松市）	公+民	道路+民有地	D. 貫通	○
10.三軒寺前広場（伊丹市）	公共	道路	E. 交差	-
11.キャッスルガーデン（姫路市）	公共	市条例	E. 交差	-
12.キャッスルガーデン北広場（姫路市）	公共	市条例	E. 交差	-
13.niwa+ニワタス（草津市）	公共	一般財産	E. 交差	-
14.富山グランドプラザ（富山市）	公共	市条例	E. 交差	-

[事例シート]

表 1-2-2 立地・敷地形態上の特性（開港広場北広場）

広場名 開港広場北広場	事例番号 1	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 公 管理上の位置づけ 道路 立地特性 業務系、観光地	形態 角地 人通りポテンシャル 高い
所在地 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目	整備年 1982（昭和57）年			
面積 約770㎡	土地所有者 横浜市			
1. 立地、敷地形態上の特性				
<p>広場周辺の建物用途および出入口の分布</p>			<p>整備前の状態 道路（交差点）の一部。敷地が面するエクスプレッスビルは、整備時には既に存在していた。</p> <p>整備のきっかけ、ねらい 関内地区の主要駅から山下公園への重要な歩行経路が通る交差点であり、ロータリー的な形状だった交差点を交差点改良事業によって再整備した際の4隅の歩道空間のうちの一つ。</p>	<p>① 周辺土地利用の特徴 大都市の臨海部であり臨港地区（商港区）と位置づけられている。周辺は行政機関や民間会社のオフィスが多い一方で、観光エリアでもある。歴史的な雰囲気を残す建物も多い。</p> <p>② 周辺の人通りの特徴 多くの歩行者が通る交差点であり、角の形状に沿った多くの人通り、および信号待ちの人が立止る場所でもある。</p> <p>③ 敷地規模形状の特徴 交差点に面した建物の壁面が隣接する区画より子応対しているため、隣接建物がL字型に面した細長い敷地である。</p>

タイプA: 角地型

表 1-2-3 敷地周囲との関係、広場内の空間構成（開港広場北広場）

広場名 開港広場北広場	事例番号 1	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系 屋根の有無 なし 敷地内建物等の有無 なし
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			
<p>領域感のある滞留空間 飲食店舗との関係が強い</p> <p>高木植栽（ケヤキ）8本</p> <p>飲食店舗の出入口</p> <p>街区内への歩行者の出入動線</p> <p>街区内への自動車・歩行者の出入動線</p> <p>主出入口</p> <p>横断歩道</p>			<p>① 広場の見つけやすさ 大規模な交差点全体、周辺から良く見える。対面する開港広場からも良く見える。</p> <p>② 広場としてのわかりやすさ けやきの列植と、建物の壁面のズレが、ほど良い領域性をつくっており、滞留できる場所であることが認識できる。</p> <p>③ 周囲の活動のしみ出し感 飲食店舗が親密な印象をつくっている。</p> <p>④ 広場への入り込みやすさ 歩道の連続性の中で、自然に足を踏み入れられる状態となっている。</p>

タイプA: 角地型

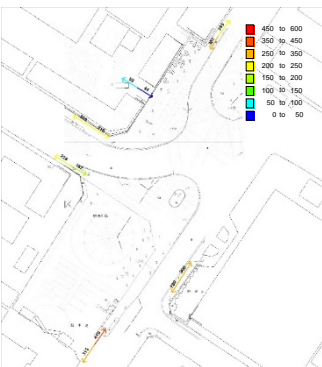



【事例シート】

表 1-2-4 広場の概況、使われ方の概観（開港広場北広場）

広場名 開港広場北広場	事例番号 1	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導	利用形態 滞留・通り抜け
3. 広場の概況、使われ方の概観			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ ほど良い囲まれ感と、周りが見渡せることを両立した、居心地の良い領域を持つ場所がある。 ⇨ 移動の途中で自然に立ち止まることができる雰囲気がある。	
■ 日常時の様子 			運営・管理主体 道路空間であるため、管理は市の道路部局が管轄する。滞留空間において、実質的には民間飲食店舗が関与しているが、位置づけは明確でない。	
			日常の利用形態について 日常的に歩行者も多く、良く使われている。建物の雰囲気も良いので、映画やテレビ、雑誌などの撮影に良く使われている。周辺でのイベント時にパレードなどが通ることもある。	
			運営に関する課題、今後の改善計画 市によるオープンカフェの位置づけの明確化が目指されている。	

タイプA：角地型

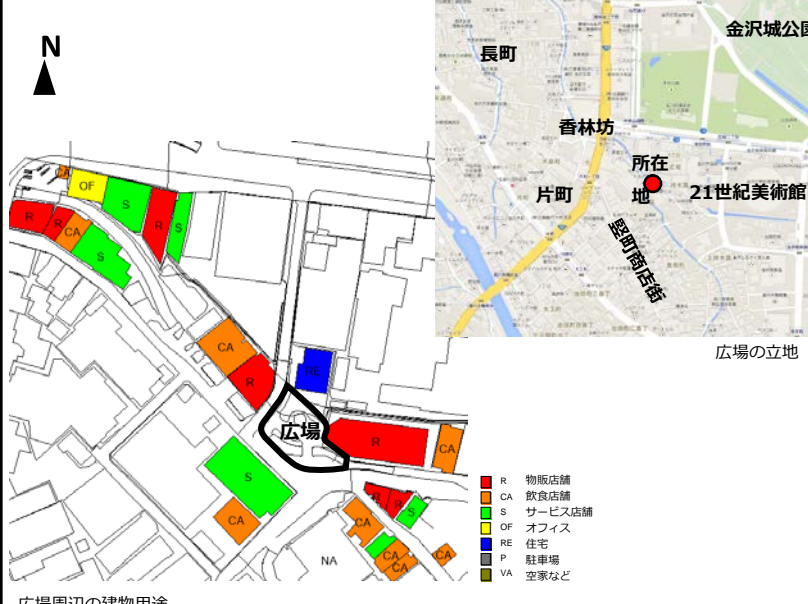
表 1-2-5 行動観測調査の結果（開港広場北広場）

広場名 開港広場北広場	事例番号 1	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	ポイント： 動線の妨げにならない場所に設けられた滞留空間が良く使われている。
4. 行動観測調査の結果			周辺の人通りと広場の関係 広場前面をはじめ、交差点全域に多くの人通りがある。
周辺の人通りレベル 	広場内の「滞留」行動の分布 	滞留行動の特徴 飲食店舗前に多くの滞留行動（座っての飲食など）がある。そのほか、建物と植栽の間の空間に多くの滞留行動が確認できる。	属性、利用時間等についての傾向 店舗前での滞留は、二人以上のグループが多く見られる。また、飲食する人は、比較的長時間にわたって広場に滞留している。
グループの分布 	広場内の「移動」行動の分布 	利用状況から読み取れる課題について 飲食等の滞留空間、交差点待ちの場所、移動のための場所などがうまく配置されており、特に大きな課題はないように思われる。	

タイプA：角地型

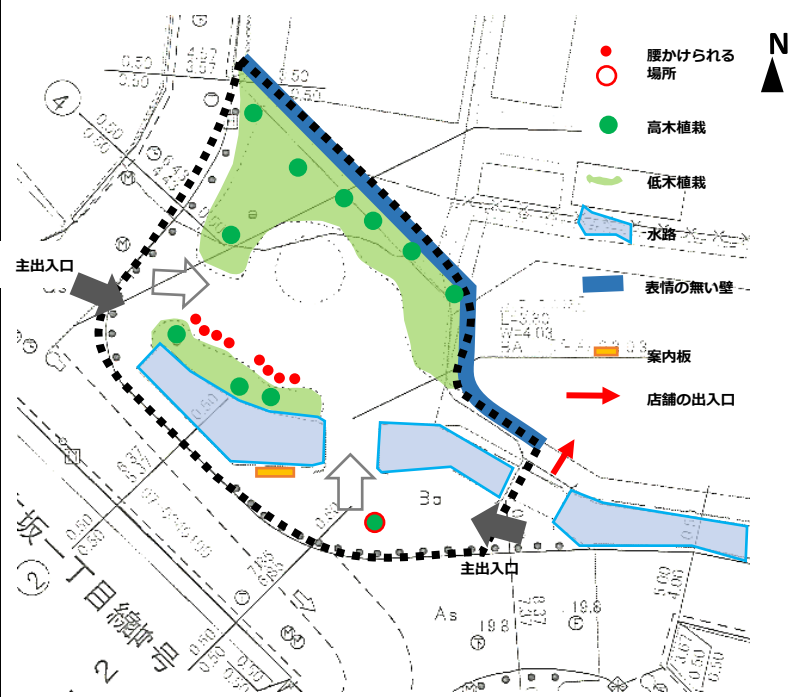
【事例シート】

表 1-2-6 立地・敷地形態上の特性（柿木畠ポケットパーク）

広場名 柿木畠ポケットパーク	事例番号 2	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 公	形態 角地
所在地 金沢市広坂1丁目114	整備年 1993（平成5）年度		管理上の位置づけ 道路	
面積 330㎡	土地所有者 金沢市		立地特性 業務・商業、観光地	人通りポテンシャル 中程度
1. 立地、敷地形態上の特性				
 <p>広場の立地</p> <p>広場周辺の建物用途</p> <ul style="list-style-type: none"> R 物販店舗 CA 飲食店舗 S サービス店舗 OF オフィス RE 住宅 P 駐車場 VA 空家など 			<p>整備前の状態 道路（交差点）の一部。かつては市民の生活の場（用水で洗濯や野菜を冷やすなど）であった。</p> <p>整備のきっかけ、ねらい 市では歩ける道筋整備事業を推進していた。また、靱月用水整備（開渠化）の先駆けとなる事業として位置づけ、道路法に基づく国補助金を活用しポケットパークの整備を行った。</p> <p>① 周辺土地利用の特徴 小規模な飲食や物販の店舗が存在する、落ち着いたエリア。この柿木畠エリアは、5 Townsと呼ばれる中心市街地のエリアの一つで、市役所等の業務系施設も近い。</p> <p>② 周辺の人通りの特徴 前述の5地区のうちの複数間を結ぶ南北および東西の動線が交差する。地域の買い物客、従業員のほか、観光客も歩く。</p> <p>③ 敷地規模形状の特徴 やや細長い形状で、3面が道路に面する。開渠化された用水が敷地を分割している。</p>	

タイプA：角地型

表 1-2-7 敷地周囲との関係、広場内の空間構成（柿木畠ポケットパーク）

広場名 柿木畠ポケットパーク	事例番号 2	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 なし
 <p>● 腰かけられる場所</p> <p>● 高木植栽</p> <p>● 低木植栽</p> <p>■ 水路</p> <p>■ 表情の無い壁</p> <p>■ 案内板</p> <p>■ 店舗の出入口</p> <p>主出入口</p> <p>主出入口</p>			<p>① 広場の見つけやすさ 交差点に位置するため、立地的には各方向から見つけやすいが、植栽等により、やや暗い印象がある。</p> <p>② 広場としてのわかりやすさ 用水と背後の植栽によって囲まれた部分は滞留空間として明快に認識できる。</p> <p>③ 周囲の活動の滲み出し感 敷地自体には、建物が面していない。隣接地に書店が存在するが、空間的な関係性は弱い。</p> <p>④ 広場への入り込みやすさ 用水の橋および低木植栽の配置により、出入口が強調され、意図的に「入る」という感覚がやや強い。</p>

タイプA：角地型

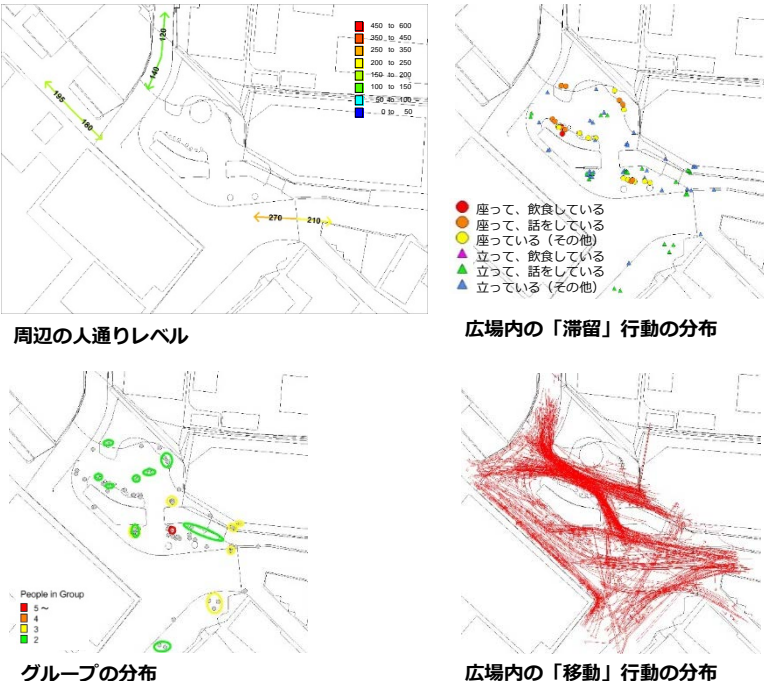
[事例シート]

表 1-2-8 広場の概況、使われ方の概観（柿木畠ポケットパーク）

広場名 柿木畠ポケットパーク	事例番号 2	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導	利用形態 滞留・通り抜け
3. 広場の概況、使われ方の概観				
<p>■ 日常時の様子</p> 			<p>滞留しやすさや居心地、雰囲気</p> <p>⇒ 囲まれ感があるが、やや暗い印象がある。他の利用者があると、気になるような雰囲気がある。</p> <p>⇒ 周囲の建物などとの関係性が弱く、空間体験としても変化が乏しいため、長時間の滞留には向かない。</p>	
			<p>運営・管理主体</p> <p>道路空間であるため、管理は金沢市道路管理課が管轄する。柿木畠振興会や近隣住民等が自主的に清掃活動を行っている。</p>	
			<p>日常の利用形態について</p> <p>通過、休憩が主体である。年に7日ほど、地域のイベントの会場として利用されている。→ <ブックECO金沢街中フェスティバル、七夕祭り（水掛け振興）、柿まつり（カレー博）、まちなか宵市></p>	
			<p>運営に関する課題、今後の改善計画</p> <p>スケートボードで遊ぶ若者によって乱雑に扱われていたモニュメントを、昨年撤去した。</p>	

タイプA: 角地型


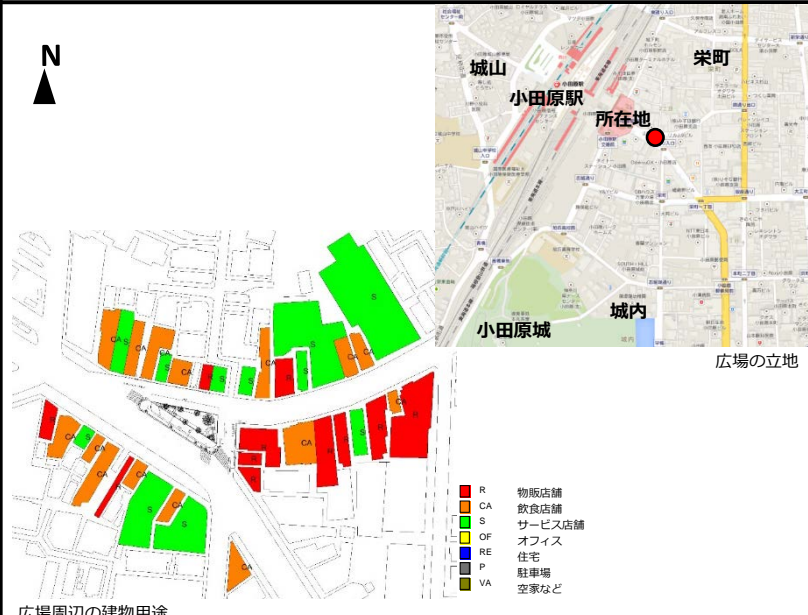
表 1-2-9 行動観測調査の結果（柿木畠ポケットパーク）

広場名 柿木畠ポケットパーク	事例番号 2	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	ポイント： いくつかの滞留場所があるが、それぞれ関係性が弱い。
4. 行動観測調査の結果			
			<p>周辺の人通りと広場の関係</p> <p>広場周辺には中程度の人通りがあり、南側が多い。</p> <p>滞留行動の特徴</p> <p>中央部の滞留空間および、道路側の植栽まわりで座る人が観測されている。また、案内板前での立ち止りも多い。</p> <p>属性、利用時間等についての傾向</p> <p>中央部での滞留は、一人もしくは二人連れであった。3人以上のグループは道路周辺での滞留が多い。</p> <p>利用状況から読み取れる課題について</p> <p>主に観光客や買い物客であると思われる案内板前での立ち止り行動と、広場中央部の滞留空間とが十分に関連していないのではないかと考えられる。</p>

タイプA: 角地型

[事例シート]

表 1-2-10 立地・敷地形態上の特性（北条ポケットパーク）

広場名 北条ポケットパーク	事例番号 3	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 公	形態 
所在地 小田原市栄町二丁目16-12番地	整備年 2007（平成19）年度		管理上の位置づけ 道路	人通りポテンシャル 極めて高い
面積 163.74㎡	土地所有者 小田原市		立地特性 商業系、観光地	
1. 立地、敷地形態上の特性				
 <p>広場周辺の建物用途</p> <ul style="list-style-type: none"> R 物販店舗 CA 飲食店舗 S サービス店舗 OF オフィス RE 住宅 P 駐車場 VA 空家など 			整備前の状態 小規模な民間建物（サービス系店舗と事務所）。 整備のきっかけ、ねらい 民間建物の所有者の移転に伴い（都市計画道路の整備計画もあるため）、市による土地購入の打診があった。市では、道路整備までの間、歩行者空間として整備することとした。	
			① 周辺土地利用の特徴 商業的な土地利用である。駅に近く、商店街の入口部でもある。 ② 周辺の人通りの特徴 3面の道路は、駅と商店街を結ぶ動線上にあるため、多くの人通りがある。 ③ 敷地規模形状の特徴 小規模な敷地であり、三角形の形状を持つ。ただし、北面、東面の道路は、日曜日の午後に歩行者天国となる。	

タイプA：角地型

表 1-2-11 敷地周囲との関係、広場内の空間構成（北条ポケットパーク）

広場名 北条ポケットパーク	事例番号 3	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 なし
 <p>● 高木植栽 ■ 案内板 〰 水景 → 飲食店舗の出入口 → 店舗の出入口</p> <p>日曜日の午後のみ歩行者専用となる部分</p>			① 広場の見つけやすさ 立地は良いが植栽等により、周辺との視覚的なつながりは弱い。 ② 広場としてのわかりやすさ 広場を囲うように高木植栽が配置されているが、これにより空間自体が狭くなり、かえって広場らしさが損なわれている。 ③ 周囲の活動のしみ出し感 北側の店舗群は屋外への活動しみ出し感があるが、広場側は敷地内で完結するような雰囲気となっている。 ④ 広場への入り込みやすさ 歩行者天国化されている時間帯以外も自動車交通はほとんど無いため、隣接道路を通して容易に広場に入り込むことができる。

タイプA：角地型

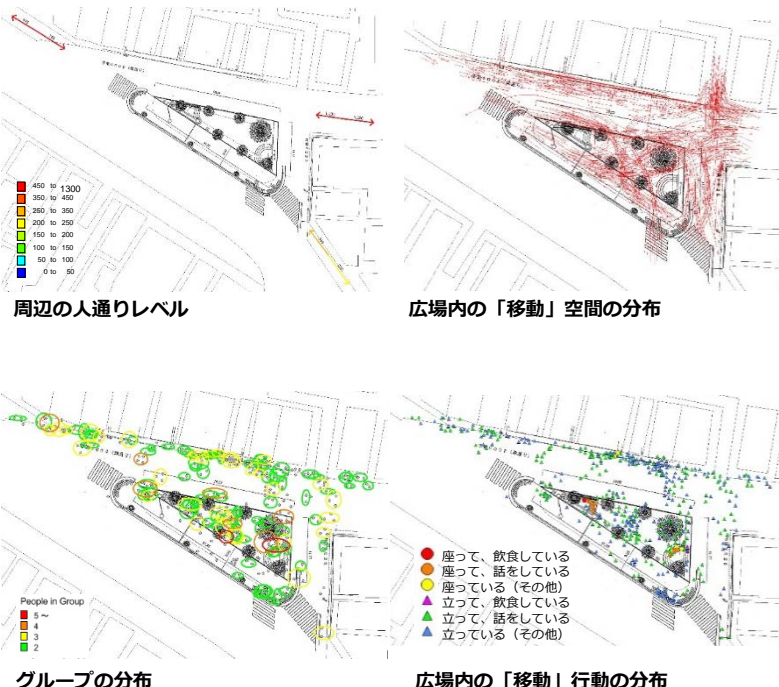
【事例シート】

表 1-2-12 広場の概況、使われ方の概観（北条ポケットパーク）

広場名 北条ポケットパーク	事例番号 3	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導 利用形態 通り抜け
3. 広場の概況、使われ方の概観			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ 居心地の良い滞留空間として設えられている場所はない。 ⇨ まわりとの視覚的なつながりが弱く、周囲の景観を楽しめるような雰囲気がない。
■ 日常時の様子  ■ 歩行者天国実施時の様子 			運営・管理主体 市の以下の部署で管理を行っている。 許認可：土木管理課 維持管理：道水路整備課 植栽管理：みどり公園課 電気施設：みどり公園課 日常の利用形態について 主に通行人の休憩や飲食、商店会におけるイベントに利用されている。 運営に関する課題、今後の改善計画 いわゆるホームレスが滞留し、地元住民とのトラブルが絶えず、対応に苦慮している。

タイプA：角地型

表 1-2-13 行動観測調査の結果（北条ポケットパーク）

広場名 北条ポケットパーク	事例番号 3	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	ポイント： 店舗前で多く滞留しているが、広場内は少ない。
4. 行動観測調査の結果			周辺の人通りと広場の関係 周辺には、非常に多くの人通りが見られる。 滞留行動の特徴 店舗前で多くの立ち止りが見られる。これと比べて広場内では比較的少ない。ベンチ等はないため、階段状の部分で座り込む人が観測されている。 属性、利用時間等についての傾向 大人数のグループ（子供連れなど）が、広場内で滞留する行動が観測されている。 利用状況から読み取れる課題について 広場内での滞留が、必ずしも周辺店舗の営業活動にプラスになっておらず、この立地の広場空間としては、求められる機能を果たしていないことが考えられる。
			

タイプA：角地型

[事例シート]

表 1-2-14 立地・敷地形態上の特性 (香林坊にぎわい広場)

広場名 香林坊にぎわい広場	事例番号 4	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 民 → 公	形態 引込
所在地 金沢市長町1丁目1ほか	整備年 2001 (平成13) 年度	土地所有者 金沢市	管理上の位置づけ 公園 (市条例)	立地特性 商業エリア
面積 1,009㎡	人通りポテンシャル 高い			
1. 立地、敷地形態上の特性				
			整備前の状態 民間企業の自社ビルが建っていたが、社屋の移転に伴って解体跡地ができた。	
整備のきっかけ、ねらい 金沢市は、にぎわい創出事業の一環として広場整備を検討していた。当時の市長が広場整備について積極的だったこともあり、市で買収し広場公園として整備。			① 周辺土地利用の特徴 市を代表する商業エリアの中心部、その裏通りに位置する。また、観光名所である武家屋敷のある長町地区に近く、特徴的な水辺である鞍月用水沿いでもある。	
② 周辺の人通りの特徴 多くの買い物客が利用する商業施設のサブ出入口から至近。百万石通りと交差する街路の突き当りに位置する。			③ 敷地規模形状の特徴 間口が狭く奥行きが深い。L字型に折れた先にも路地的に接続。通抜け動線があるが、前面の人通りの引込みが主。	

タイプB：動線 引込型

表 1-2-15 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (香林坊にぎわい広場)

広場名 香林坊にぎわい広場	事例番号 4	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 なし
① 広場の見つけやすさ 商業施設裏口から、広場出入口の沿道部分が見える。また、前面道路と直行する道路の突き当りに位置するため、この道路からは良く見える。			② 広場としてのわかりやすさ 広場を挟む2面に建物があり、奥は駐車場になっている。領域は明快であり、ベンチや植栽等もあり、滞留できる広場であることは容易に認識できる。
③ 周囲の活動の滲み出し感 境界は一部を除き壁であるため、周囲の活動は感じられない。			
④ 広場への入り込みやすさ 周囲のすべての建物が、広場に背を向けているため、前面道路の主出入口と、細街路側の副出入口から進入することになる。通り抜けができることが一見で判断できないため、副出入口からは入りにくい印象である。			

タイプB：動線 引込型

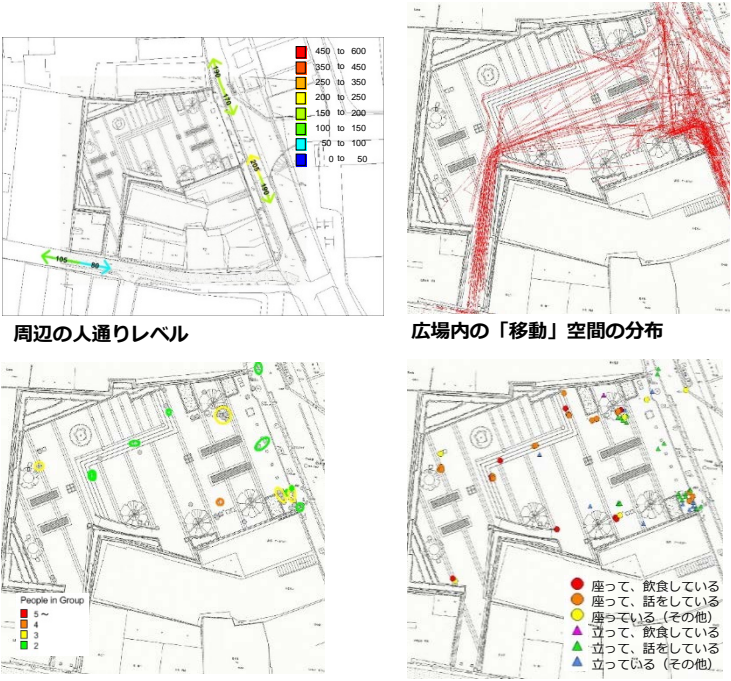
[事例シート]

表 1-2-16 広場の概況、使われ方の概観（香林坊にぎわい広場）

広場名 香林坊にぎわい広場	事例番号 4	○ 詳細調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導	利用形態 イベント + 日常利用
		○ 行動観測調査対象		
3. 広場の概況、使われ方の概観				
■ 日常時の様子 			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ ベンチ周りは、緑陰があるものの居心地の良さを感じさせるような囲まれ感には、やや乏しい。 ⇨ ベンチから見える通り側の状況には特筆すべきものはない。	
			運営・管理主体 金沢市。除草・清掃、花苗植栽については、造園業者に委託。ほかに、公園里親団体が日常的な管理の補助を行っている。	
			日常の利用形態について 商業施設や業務街にも近いため休憩のための滞留がある。また、通り抜け路としても使われる。 夏場は、保育園児や子どもの親水空間としても使われる。イベントは、年10～20日程度行われている。	
			運営に関する課題、今後の改善計画 噴水装置のメンテナンス費用の削減、イベント時の音量制限（近隣住民に配慮）、広場内の不法駐輪などが課題となっている。	

タイプB：動線引込型

表 1-2-17 行動観測調査の結果（香林坊にぎわい広場）

広場名 香林坊にぎわい広場	事例番号 4	○ 詳細調査対象	ポイント： 前面道路近くでの立止り行動が多く見られた。奥側の利用は少ない。
		○ 行動観測調査対象	
4. 行動観測調査の結果			
			周辺の人通りと広場の関係 近傍の商業施設に近い部分に、より多くの人通りが見られる。前面道路の沿いを歩く人が動線近くにおいて立ち話（地図を見て行先の相談をするなど）をする姿が見られた。
			滞留行動の特徴 座っての休憩などは、北側のベンチや階段などで南あるいは東を向いて腰かける人がいくらか見られた。
			属性、利用時間等についての傾向 案内板や地図を見る行動が観測されたことから観光客と思われる滞留者が複数観測された。また、子供連れの滞留も見られた。冬季であったことから、正午過ぎのほうが、夕方近くよりも滞留行動が多く見られた。また、長時間滞在する人はあまりみられなかった。
			利用状況から読み取れる課題について 周囲には商業施設が多いが、買い物途中の休憩にはあまり使われていないのではないかとと思われる（各施設敷地内で休憩することが多い模様）。周辺施設との関係を強め、多様な利用を促すことが望まれる。

タイプB：動線引込型

[事例シート]

表 1-2-18 立地・敷地形態上の特性 (タテマチ・ハーバー)

広場名 タテマチ・ハーバー	事例番号 5	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 民 管理上の位置づけ 民有地 立地特性 商業エリア	形態 引込 人通りポテンシャル 高い
所在地 金沢市豎町41ほか	整備年 2013 (平成25) 年度	土地所有者 豎町商店街復興組合		
面積 464㎡				
1. 立地、敷地形態上の特性				
<p>広場の立地</p>			<p>整備前の状態 商店街の店舗の撤退による空き地。</p> <p>整備のきっかけ、ねらい 空き地化していた場所を商店街復興組合で買い取って、暫定的に広場化した。一時は、駐輪場として使われた時期もあったが、にぎわいの創出を目指してイベント広場として活用することになった。</p>	
<p>広場周辺の建物用途</p>			<p>① 周辺土地利用の特徴 商店街のメインストリート沿いであり、周囲は物販店舗が多い。飲食店舗が極めて少ないことがこの商店街の特徴のひとつでもある。</p> <p>② 周辺の人通りの特徴 前面に多くの人通りがある。</p> <p>③ 敷地規模形状の特徴 間口が狭く奥行きが深い。また、L字型に曲がり、奥側が広がっている。</p>	

タイプB：動線 引込型

表 1-2-19 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (タテマチ・ハーバー)

広場名 タテマチ・ハーバー	事例番号 5	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 ウッドデッキ 屋根の有無 なし 敷地内建物等の有無 あり (簡易キッチン設備)
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			
<p>可動式テーブル、イス</p> <p>表情の無い壁</p>			<p>① 広場の見つけやすさ 間口が狭いため、沿道からは、かなり近づかなければ前面道路と直行する道路の突き当たり近くに位置するため、この道路からも見える。</p> <p>② 広場としてのわかりやすさ 両側面が既存建物の壁に挟まれ、奥にはマンションが見える。広場を感じさせる要素がなく、非イベント時には誰でも休憩できる広場として認識されづらい状況である。</p> <p>③ 周囲の活動の滲み出し感 入口以外の3面が無表情な壁となっており、活動の滲み出し感はない。</p> <p>④ 広場への入り込みやすさ デッキの階段を数段上って入る。特別な目的が無い限り、ふらりと立ち寄り雰囲気ではない。</p>

タイプB：動線 引込型

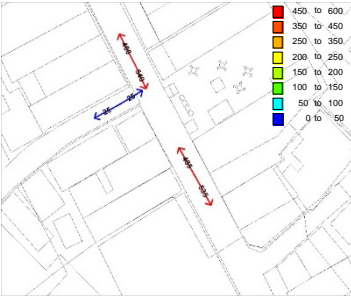
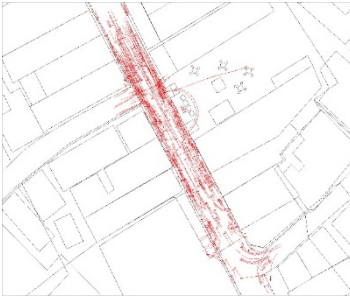


【事例シート】

表 1-2-20 広場の概況、使われ方の概観（タデマチ・ハーバー）

広場名 タデマチ・ハーバー	事例番号 5	○ 詳細調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導	利用形態 イベント + 日常利用
		○ 行動観測調査対象		
3. 広場の概況、使われ方の概観				
■ 日常時の様子 			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ 無表情な壁に挟まれた空間で、緑もなく、居心地は良くない。 ⇨ また、奥に入ると周囲がほとんど見えず、一人で滞留するのは、かなり躊躇われる雰囲気である。	
			運営・管理主体 堅町商店街復興組合。	
			日常の利用形態について 土・休日はイベント空間として使われている（プロジェクションマッピング、ジャズストリート等の音楽イベント、夏まつり、金沢大学ストリートキャンパスなど）。平日は休憩スペースとなっている。	
			運営に関する課題、今後の改善計画 イベント時の音量制限（近隣住民対策）。現在は、近隣住民への事前告知（イベント説明）をしている。	

タイプB：動線引込型



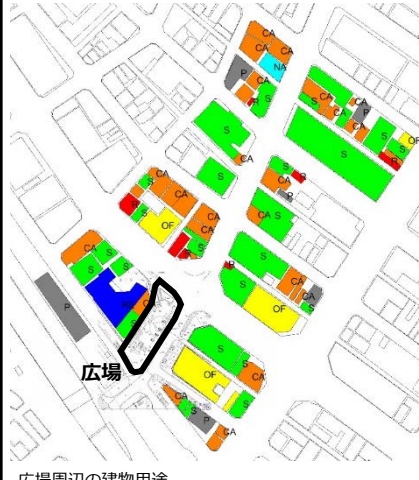
表 1-2-21 行動観測調査の結果（タデマチ・ハーバー）

広場名 タデマチ・ハーバー	事例番号 5	○ 詳細調査対象	ポイント： 日常時の休憩利用は少ない。
		○ 行動観測調査対象	
4. 行動観測調査の結果			
 <p>周辺の人通りレベル</p>			周辺の人通りと広場の関係 前面道路に多くの人通りがある。
 <p>広場内の「移動」空間の分布</p>			
 <p>グループの分布</p>			
 <p>広場内の「滞留」行動の分布</p>			
			滞留行動の特徴 調査日は、大学による展示イベントが開催中で可動式のテーブルとイスが配置されていたため、そこで何組かの滞留があった。周囲に飲食店舗が少ないこともあってか、飲食行動も見られた。ただし、滞留行動の絶対数としては極めて少ない。
			属性、利用時間等についての傾向 滞留する歩行者は、ほとんどが若者か、子供連れだった。
			利用状況から読み取れる課題について 非イベント時の利用がほとんどないのではないと思われる。周囲に飲食店舗や休憩場所が少ないことから、より居心地の良い場所づくりが望まれる。

タイプB：動線引込型

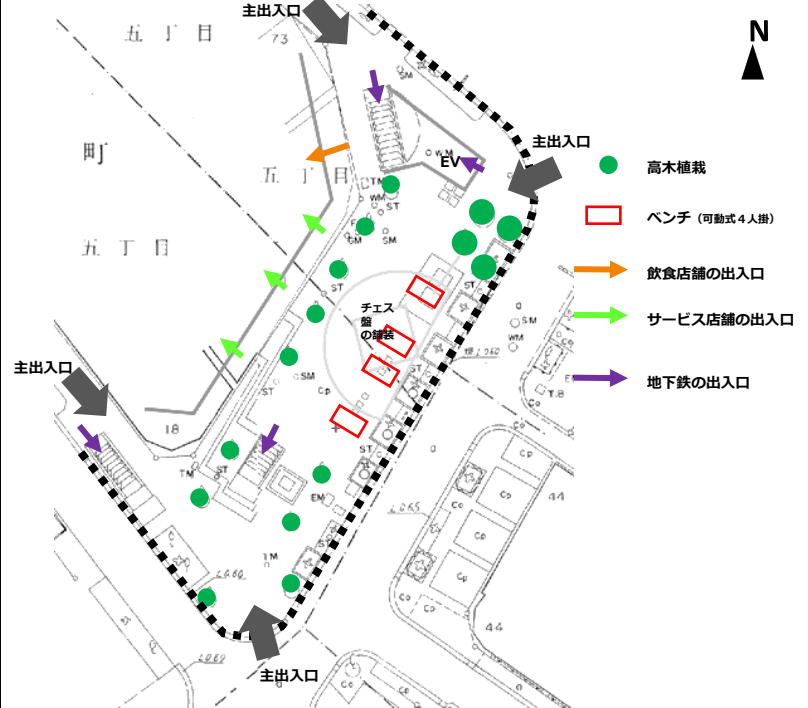
[事例シート]

表 1-2-22 立地・敷地形態上の特性（馬車道広場）

広場名 馬車道広場	事例番号 6	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 公	形態 
所在地 神奈川県横浜市中区尾上町5丁目	整備年 1978（昭和53）年		管理上の位置づけ 道路	人通りポテンシャル 中程度
面積 約 1,170 m ²	土地所有者 横浜市		立地特性 商業系、駅周辺	
1. 立地、敷地形態上の特性				
  <p>広場周辺の建物用途</p> <ul style="list-style-type: none"> R 物販店舗 CA 飲食店舗 S サービス店舗 OF オフィス RE 住宅 P 駐車場 VA 空家など NA その他 			<p>整備前の状態 道路。かつては2車線の対面通行であった区間の片側車線を歩道化した。</p> <p>整備のきっかけ、ねらい 歩行者優先の街路づくりの政策の一環として、馬車道の整備が行われた。その端部であり、商業施設（マルイ）の前庭となる場所として広場の整備が計画、実施された。</p>	
			<p>① 周辺土地利用の特徴 商店街（物販よりもサービス系、飲食系が多い）の端部である。また、駅（JR・地下鉄）からも近い。</p> <p>② 周辺の人通りの特徴 複数の駅や周辺からの動線が通る。</p> <p>③ 敷地規模形状の特徴 道路に対して建物がセットバックしたような、ほぼ矩形の形状を持つ空間である。</p>	

タイプC：施設 前庭型

表 1-2-23 敷地周囲との関係、広場内の空間構成（馬車道広場）

広場名 馬車道広場	事例番号 6	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 煉瓦系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 あり（地下鉄出入口）
 <p>● 高木植栽</p> <p>□ ベンチ（可動式4人掛）</p> <p>→ 飲食店舗の出入口</p> <p>→ サービス店舗の出入口</p> <p>→ 地下鉄の出入口</p>			<p>① 広場の見つけやすさ 商店街の主たる部分とは、交差点で分断されており、地下鉄の出入口が視界を遮る部分もあるため、それほど周囲から見つけやすくない。</p> <p>② 広場としてのわかりやすさ 高木植栽やベンチなどが配置され、広場としての認知は容易である。</p> <p>③ 周囲の活動の滲み出し感 一角にカフェのテラス席があるが、それ以外の店舗は、あまり広場との関係をつくっていない。</p> <p>④ 広場への入り込みやすさ 周辺の動線を自然に取り込んでいる。ただ、広場の東面の車道（交通量は少ない）からは進入できない設えとなっている。</p>

タイプC：施設 前庭型

[事例シート]

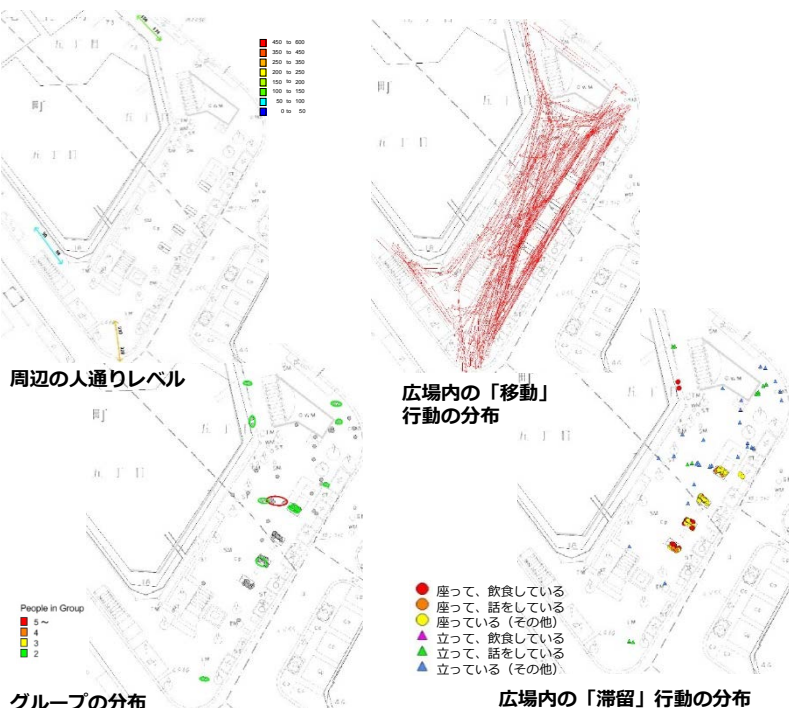
表 1-2-24 広場の概況、使われ方の概観（馬車道広場）

タイプC：施設 前庭型

広場名 馬車道広場	事例番号 6	<input type="radio"/> 詳細調査対象	実質的な管理・運営の主体 ● 公共主導 ● 民間主導	利用形態 滞留・通り抜け
		<input type="radio"/> 行動観測調査対象		
3. 広場の概況、使われ方の概観				
<p>■ 日常時の様子</p> 			<p>滞留しやすさや居心地、雰囲気</p> <p>⇒ かつては、商業施設の前庭としての明確な位置づけがあったが、現在は、サービス系店舗が中心で、建物との関係は弱い。</p> <p>⇒ 滞留空間としての小さな領域感あまり感じられない。また、通過する歩行者の流れが強い。</p>	
			<p>運営・管理主体</p> <p>道路空間であるため、管理は市の道路部局が管轄する。馬車道全体としては、商店街が運営に関わっている。</p> <p>日常の利用形態について</p> <p>日常的に歩行者も多く、通過には良く使われている。広場の路面を用いたチェス大会が定期的に行われている。</p> <p>運営に関する課題、今後の改善計画</p> <p>今後、横浜市庁舎が移転することによって、人の流れが変わることが予想される。この広場と案内駅の間の高架下空間の有効活用の検討が始まっている。</p>	


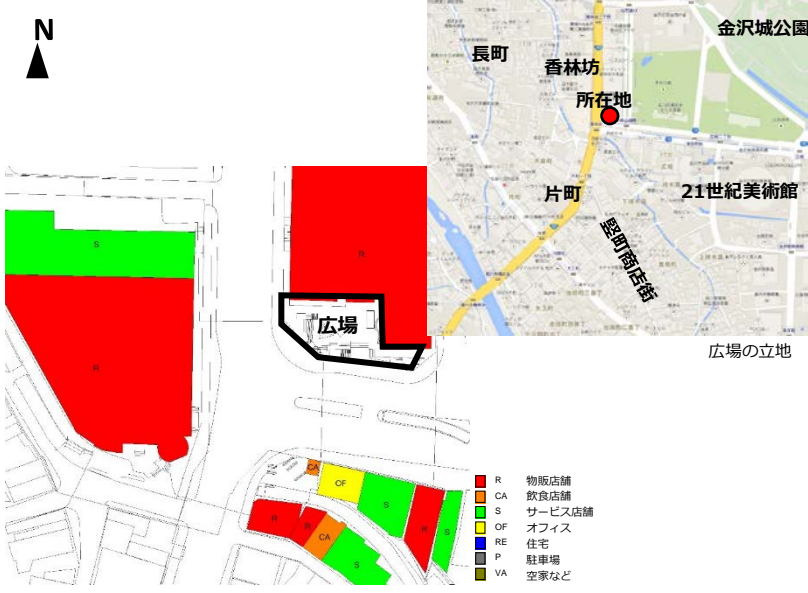
表 1-2-25 行動観測調査の結果（馬車道広場）

タイプC：施設 前庭型

広場名 馬車道広場	事例番号 6	<input type="radio"/> 詳細調査対象	ポイント： 移動空間と滞留空間の構成に不整合がある。
		<input type="radio"/> 行動観測調査対象	
4. 行動観測調査の結果			
			<p>周辺の人通りと広場の関係</p> <p>4方向からの動線が、広場内を横切っている。ベンチが置かれている付近も流れが強く、ベンチをよけるような動線になっている。</p> <p>滞留行動の特徴</p> <p>ベンチでの休憩がほとんどである。カフェのオープンテラスでの飲食も確認された。一方、立って滞留する行動はあまり見られない。</p> <p>属性、利用時間等についての傾向</p> <p>2人以上の滞留行動は少ない。ベンチでも1人で休憩する人が多い。利用時間は、短時間がほとんどである。</p> <p>利用状況から読み取れる課題について</p> <p>移動空間と滞留空間の構成が明確でなく、ベンチが動線の妨げになっているとも言える。また、結果として建物から離れた部分で滞留することとなり、建物と広場の関係性、滞留空間の領域性は弱い。前庭的な機能が弱まっていることから、対面する歩道を含めて、機能設定を再考することが望まれる。</p>

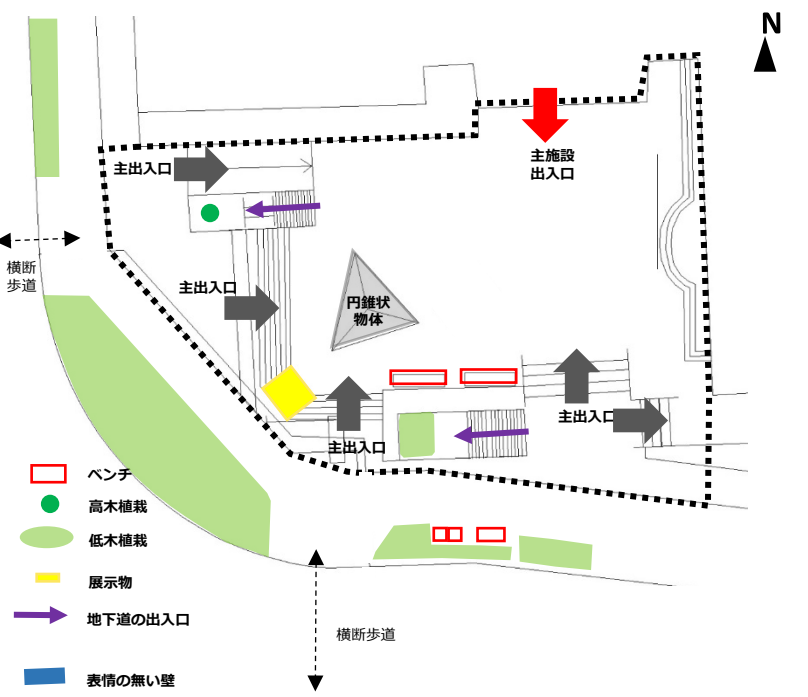
[事例シート]

表 1-2-26 立地・敷地形態上の特性（香林坊アトリオ広場）

広場名 香林坊アトリオ広場	事例番号 7	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 民	形態 
所在地 金沢市香林坊1-1-1	整備年 1986（昭和61）年度		管理上の位置づけ 民有地（公開空地）	人通りポテンシャル 高い
面積 約1,000㎡	土地所有者 金沢都市開発（株）ほか		立地特性 商業エリア	
1. 立地、敷地形態上の特性				
			<p>整備前の状態 民間の小規模な店舗兼住宅群。</p> <p>整備のきっかけ、ねらい 再開発ビルの公開空地である。香林坊交差点の一角に位置し、地下道の出入口もあることから歩行空間を確保している。</p>	
			<p>① 周辺土地利用の特徴 商業的エリアの最重要交差点。</p> <p>② 周辺の人通りの特徴 主に、商業施設（アトリオ）を利用する買物客や観光客が多く通る。</p> <p>③ 敷地規模形状の特徴 商業施設の出入口前に位置する、ほぼ矩形の形状を持つ広場である。</p>	

タイプC：施設 前庭型

表 1-2-27 敷地周囲との関係、広場内の空間構成（香林坊アトリオ広場）

広場名 香林坊アトリオ広場	事例番号 7	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 あり（地下道出入口）
			<p>① 広場の見つけやすさ 街のなかで有数の交差点であり、街路の幅員も広いので、周囲から視認しやすい。</p> <p>② 広場としてのわかりやすさ 植栽もなく無機質な印象であり、滞留できる広場という認識は持たれにくい状態である。</p> <p>③ 周囲の活動のしみ出し感 商業施設の出入口が1か所ある以外は壁であり、しみ出し感はない。</p> <p>④ 広場への入り込みやすさ 階段を数段上って入る形態である。商業施設に行こうとする人以外は、あまり自然に立ち入らない構成になっている。</p>

タイプC：施設 前庭型

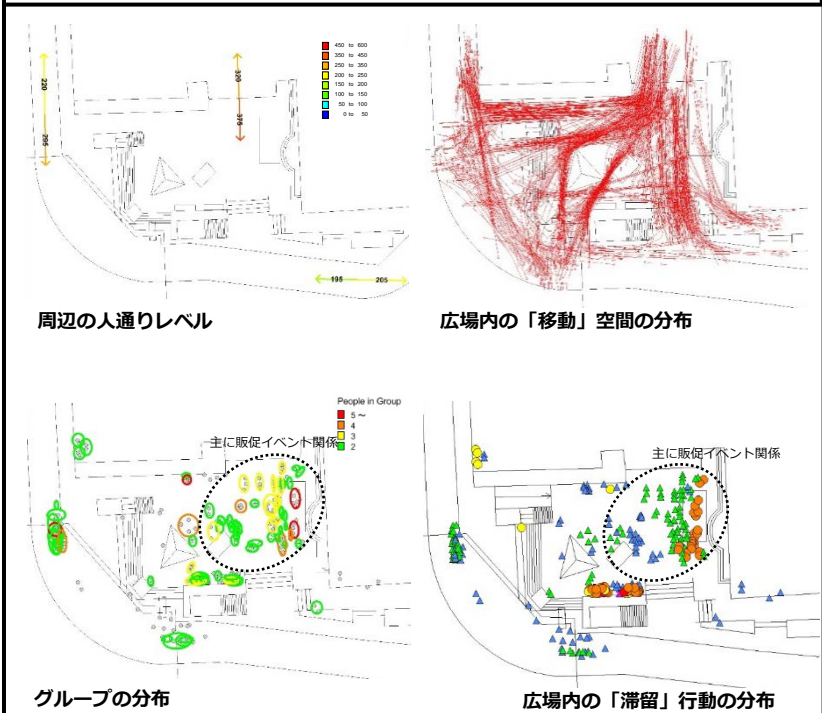
[事例シート]

表 1-2-28 広場の概況、使われ方の概観（香林坊アトリオ広場）

広場名 香林坊アトリオ広場	事例番号 7	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導	利用形態 イベント + 日常利用
3. 広場の概況、使われ方の概観			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ 主施設出入口周辺は、移動空間として広いスペースが確保されている。一方で、滞留空間は、広場の周縁部にベンチが設置されている。ただ、そこからは建物の壁が正面にあるのみで、あまり居心地の良い空間とはなっていない。	
■ 販促イベント開催時の様子 			運営・管理主体 主施設の管理者である金沢都市開発株式会社が管理・運営にあっている。 日常の利用形態について 歩道と一体的な歩行空間として利用。商業施設の催事や商店街のイベント広場として活用。 運営に関する課題、今後の改善計画 イベント時の雨天等への対応が課題となっている。	

タイプC：施設 前庭型

表 1-2-29 行動観測調査の結果（香林坊アトリオ広場）

広場名 香林坊アトリオ広場	事例番号 7	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	ポイント： 滞留ニーズはあるが、場所が少ない。
4. 行動観測調査の結果			周辺の人通りと広場の関係 主施設である商業施設から出る人の流れが最も多い。広場の周囲にも多くの人通りがある。 滞留行動の特徴 調査日は、企業の販促イベントが行われていたため、建物出口前に設置されたテントおよび展示車の周りに立って話（アンケート等）をする人が多く見られた。一般の滞留については、ベンチでの休憩が多く観測された。 属性、利用時間等についての傾向 2～3人連れが多く見られた。 利用状況から読み取れる課題について 滞留のニーズはかなり高いと思われるが、休憩できる場所が少ない。また、広い空間を縦横に動線が横切するため、滞留のために残された空間が限られている。日常的に居心地良く休憩できる場所について検討することが望まれる。
			

タイプC：施設 前庭型

[事例シート]

表 1-2-30 立地・敷地形態上の特性 (グリーンけやき広場)

広場名 グリーンけやき広場	事例番号 8	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 民 公	形態 
所在地 高松市丸亀町7-16	整備年 2012(平成)24年		管理上の位置づけ 道路+民有地	
面積 約620㎡	土地所有者 高松市および丸亀町グリーン株式会社		立地特性 商業エリア	人通りポテンシャル 極めて高い
1. 立地、敷地形態上の特性				
 <p>物販・飲食店舗等が混在する商店街</p> <p>広場の立地</p> <p>広場周辺の建物用途</p> <ul style="list-style-type: none"> R 物販店舗 CA 飲食店舗 S サービス店舗 OF オフィス RE 住宅 P 駐車場 VA 空家など 			<p>整備前の状態 商店街の道路と、民間建物(店舗)群。</p> <p>整備のきっかけ、ねらい 商店街の一街区、道路の両側において、低層部を店舗とする再開発ビル建設を行う際、道路沿い部分をセットバックし、広場空間としている。</p> <p>① 周辺土地利用の特徴 商店街の端部に位置しており、ショッピングセンター的に一体として運営される街区。物販と飲食の店舗が混在している。</p> <p>② 周辺の人通りの特徴 商店街の人通りが卓越している。さらに、この街区区内における回遊の流れ(平面および上階との間)がある。</p> <p>③ 敷地規模形状の特徴 店舗に取り囲まれる長方形の形態となっている。</p>	

タイプD：動線 貫通型

表 1-2-31 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (グリーンけやき広場)

広場名 グリーンけやき広場	事例番号 8	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 あり
			敷地内建物等の有無 広場内には無し
 <p>● 高木植栽 ■ 案内板 □ ベンチ ● 低木植栽 ● 可動式テーブル、イス</p> <p>飲食店舗の出入 店舗の出入口</p> <p>主施設出入口</p> <p>ES C</p>			<p>① 広場の見つけやすさ 商店街を南下する際に、自然に目に入る。また、上階から見おろされる対象でもある。</p> <p>② 広場としてのわかりやすさ 明確な領域感があり、ベンチや植栽が配置されており、滞留できる広場として容易に認識できる。</p> <p>③ 周囲の活動の滲み出し感 一部の飲食店舗が広場内のテーブルとイスとの関係性をつくっている。他の店舗の開口部も面するが、内部の活動はあまり伝わらない。</p> <p>④ 広場への入り込みやすさ 商店街の主動線が貫通していることから、商店街を歩く中で自然に足を踏み入れる場所となっている。</p>

タイプD：動線 貫通型

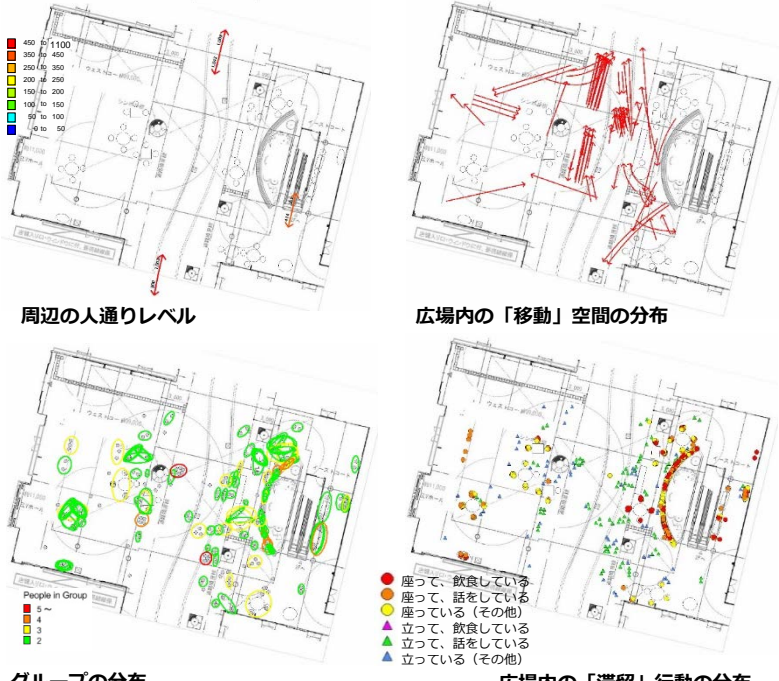
【事例シート】

表 1-2-32 広場の概況、使われ方の概観（グリーンけやき広場）

広場名 グリーンけやき広場	事例番号 8	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導	利用形態 日常利用 + イベント
3. 広場の概況、使われ方の概観			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ エスカレーター脇に設置されたベンチは、植栽を背にして、商店街の人通りを眺められて居心地が良い。 ⇨ 可動式のテーブルとイスは、配置によって、やや落ち着かない場所もある。	
■ 日常時の様子 			運営・管理主体 施設の管理者である丸亀町グリーン株式会社 が日常的な管理・運営にあっている。 日常の利用形態について 買い物途中などの休憩が主な利用形態である。また、大小さまざまなイベントが行われている。 運営に関する課題、今後の改善計画 民間施設の管理部分のため不明。	

タイプD：動線 買通型


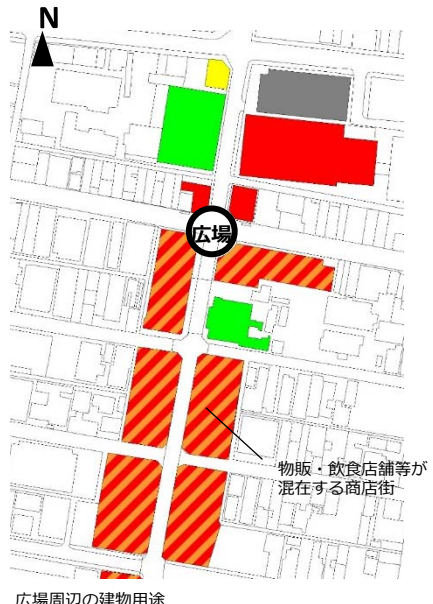

表 1-2-33 行動観測調査の結果（グリーンけやき広場）

広場名 グリーンけやき広場	事例番号 8	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	ポイント： 片側が、かなり多く使われている。
4. 行動観測調査の結果			周辺の人通りと広場の関係 商店街の人の流れが極めて多い。また、2階との間のエスカレーターも多く利用者がいる。 滞留行動の特徴 商店街の主動線の両側に滞留空間があるが、エスカレーター側の滞留が圧倒的に多い。円弧状のベンチに座っての休憩行動が最も多く観測されている。飲食も多く行われている。エスカレーターと逆の側については、立ち止まりも少ない。 属性、利用時間等についての傾向 グループでの滞留行動は、主動線に近い部分で多く観測されている。 利用状況から読み取れる課題について エスカレーター側のやや狭い場所が、滞留空間として良く選ばれている。その他の場所にも可動式のテーブルとイスがあるが、その設置位置を工夫するなどして、より多くの居心地のよい場所を提供することが望まれる。
			タイプD：動線 買通型

タイプD：動線 買通型

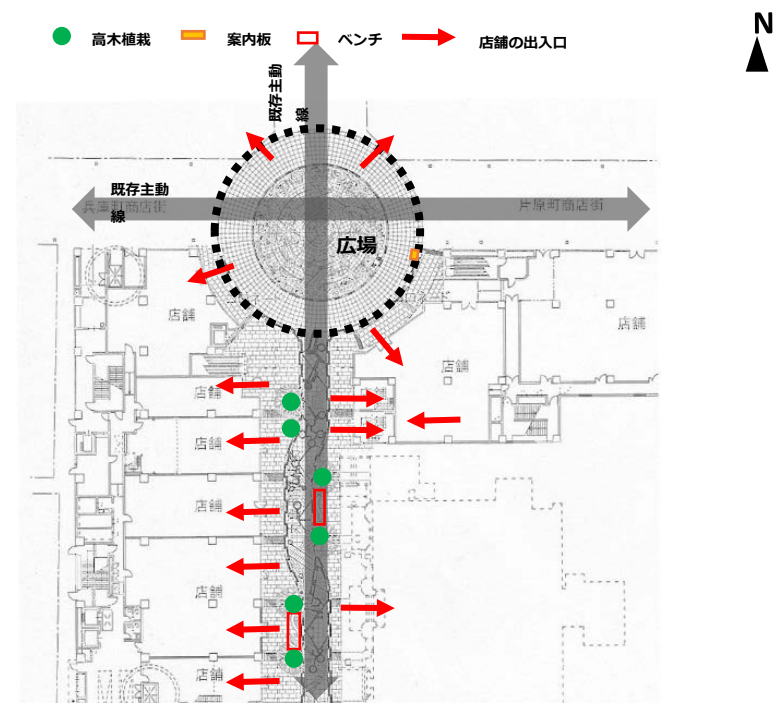
[事例シート]

表 1-2-34 立地・敷地形態上の特性（丸亀町吉番街ドーム広場）

広場名 丸亀町吉番街ドーム広場	事例番号 9	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	土地の所有者 民 公	形態 
所在地 高松市丸亀町1番地1	整備年 2007（平成）19年度		管理上の位置づけ 道路+民有地	人通りポテンシャル 極めて高い
面積 約530㎡	土地所有者 高松市および高松市丸亀町吉番街の各地権者		立地特性 商業エリア	
1. 立地、敷地形態上の特性				
			 <p>広場の立地</p>	
			整備前の状態 商店街の道路と、民間建物（店舗）群。 整備のきっかけ、ねらい 連鎖的な商店街再開発の最初期に整備された広場。別の商店街と交差する部分を象徴的なドームで覆い、広場としている。戦略的中心市街地中小商業活性化支援事業の補助を受けている。	
			① 周辺土地利用の特徴 商業エリアの中心部であり、百貨店にも近い立地である。 ② 周辺の人通りの特徴 2商店街の人の流れの交差点である。 ③ 敷地規模形状の特徴 交差点に沿った建物をセットバックすることによって、円形の形状をつくっている。	

タイプD：動線 貫通型

表 1-2-35 敷地周囲との関係、広場内の空間構成（丸亀町吉番街ドーム広場）

広場名 丸亀町吉番街ドーム広場	事例番号 9	○ 詳細調査対象 ○ 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 あり
			敷地内建物等の有無 広場内には無し
			① 広場の見つけやすさ 周辺からはドーム屋根がランドマークとなり、よく視認できる。 ② 広場としてのわかりやすさ 再開発によって整備された建物に囲まれている象徴的な場所であることは容易に認識できる。広場自体ではなく、周囲の滞留空間が、より広場的に機能している。 ③ 周囲の活動の滲み出し感 ブランド店舗などの店舗出入口が面しているが、あまりフレンドリーではない印象を与える。 ④ 広場への入り込みやすさ 商店街の主動線2本が貫通していることから、商店街を歩く中で自然に足を踏み入れる場所となっている。

タイプD：動線 貫通型

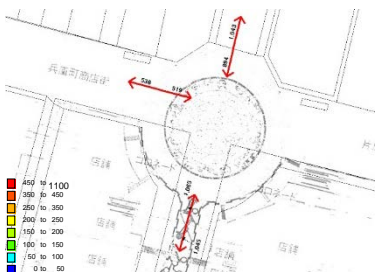
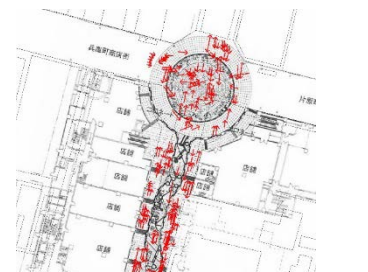
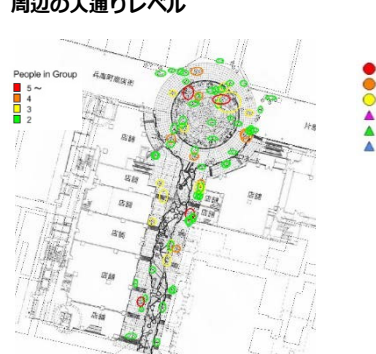

【事例シート】

表 1-2-36 広場の概況、使われ方の概観（丸亀町壱番街ドーム広場）

広場名 丸亀町壱番街ドーム広場	事例番号 9	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 公共主導 民間主導 利用形態 日常利用 + イベント
3. 広場の概況、使われ方の概観			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ この広場自体には明確な滞留空間はない。 ⇨ 中央部は、自転車も通りゆっくりと滞留することは困難である。店舗前などに短時間立ち止まることは可能。
■ 日常時の様子 		運営・管理主体 施設の管理者である高松丸亀町商店街振興組合が日常的な管理・運営にあっている。	
■ 隣接する歩行者空間 	■ イベント開催時の様子 	日常の利用形態について 歩行や自転車で通過する場所となっている。商店街主催や、企業・団体による持ち込みのイベントが年間220件程度実施されている。 運営に関する課題、今後の改善計画 （広場に限らず商店街全体として）滞留空間の充実、子供が遊べる場所、大人の男性が時間を費やせる場所や機能について検討を行っている。	

タイプD：動線貫通型

表 1-2-37 行動観測調査の結果（丸亀町壱番街ドーム広場）

広場名 丸亀町壱番街ドーム広場	事例番号 9	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	ポイント： 座るスペースはないが、広場内での立止りは多い。
4. 行動観測調査の結果			周辺の人通りと広場の関係 交差する商店街の人の流れが極めて多い。 滞留行動の特徴 円形のドーム広場自体には、ベンチ等が設置されていないため、立ち止まり行動が観測されているのみである。広場南側には、ベンチが設置された滞留空間があり、ここでは座っての休憩行動がいくらか観測されている。 属性、利用時間等についての傾向 広場中央部で立ち止まる3人以上のグループも多く観測されている。 利用状況から読み取れる課題について ドーム広場は、当初から滞留を意図してつくられていないが、重要な交差点であるため、この周囲での休憩のニーズは高いと思われる。周辺の空間を含めて、滞留スペースの配置や、その周囲の空間状況について、検討が望まれる。
周辺の人通りレベル 	広場内の「移動」空間の分布 		
グループの分布 	広場内の「滞留」行動の分布 		

タイプD：動線貫通型

[事例シート]

表 1-2-38 立地・敷地形態上の特性 (三軒寺前広場)

広場名 三軒寺前広場	事例番号 10	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	土地の所有者 公	形態
所在地 伊丹市中央2丁目	整備年 昭和63年～平成1年,平成1年～平成12年		管理上の位置づけ 道路	人通りポテンシャル 中程度
面積 2,600㎡	土地所有者 伊丹市		立地特性 商業系、駅周辺	
1. 立地、敷地形態上の特性				
			整備前の状態 細街路に沿って、小規模な住宅が密集していた。 整備のきっかけ、ねらい 宮ノ前再開発事業に合わせて実施された。伊丹市の中心市街地を東西と南北に結ぶ歩行者優先の空間で、一体となった文化ゾーンを形成することを目的として整備された。	
			① 周辺土地利用の特徴 街の中心であり、最も重要な歩行者動線の一部である。東西、南北に接続する街路は、商業系の土地利用が多く見られる。 ② 周辺の人通りの特徴 多くの方面からの動線が通る。特に、東西方向は2駅間の人の流れがある。 ③ 敷地規模形状の特徴 東西に細長く伸びる。また、東側は交差点を挟んで3つの角が広場となっている。	

タイプE: 動線 交差型

表 1-2-39 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (三軒寺前広場)

広場名 三軒寺前広場	事例番号 10	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 無し
			① 広場の見つけやすさ 周辺の動線が集まる立地にあるため、周囲から良く見える。 ② 広場としてのわかりやすさ 四方を建築物に囲まれており、周縁部を高木植栽が囲んでいることから、明快な領域性がある。大区画の寺の前面であることも広場らしさに寄与している。 ③ 周囲の活動の滲み出し感 東側は、カフェや酒蔵前に親密な雰囲気がある。西側はやや無表情な印象となっている。 ④ 広場への入り込みやすさ 広場を横切る多くの動線が認識でき、安心して足を踏み入れることができる。

タイプE: 動線 交差型

[事例シート]

表 1-2-40 広場の概況、使われ方の概観（三軒寺前広場）

タイプE：動線交差点

広場名 <h2 style="text-align: center;">三軒寺前広場</h2>	事例番号 <h1 style="text-align: center;">10</h1>	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"> 実質的な管理・運営の主体 <input checked="" type="radio"/> 公共主導 <input type="radio"/> 民間主導 </td> <td style="text-align: center;"> 利用形態 <h2 style="text-align: center;">イベント + 日常利用</h2> </td> </tr> </table>	実質的な管理・運営の主体 <input checked="" type="radio"/> 公共主導 <input type="radio"/> 民間主導	利用形態 <h2 style="text-align: center;">イベント + 日常利用</h2>
実質的な管理・運営の主体 <input checked="" type="radio"/> 公共主導 <input type="radio"/> 民間主導	利用形態 <h2 style="text-align: center;">イベント + 日常利用</h2>				
<h3>3. 広場の概況、使われ方の概観</h3>			<p>滞留しやすさや居心地、雰囲気</p> <p>⇒ 広場全体を見渡すことができ、広々とした印象。</p> <p>⇒ ベンチは通りに沿って配置されており、緑陰はあるものの、領域性は弱い。</p>		
<p>■ 日常時の様子</p>  <p>■ 日常時の様子 ※クロスロードカフェ館木氏提供</p> 			<p>運営・管理主体</p> <p>運営：官と民が入った各実行委員会等に よって行われている 管理：伊丹市（道路保全課）</p> <p>日常の利用形態について</p> <p>休憩、通過</p> <p>運営に関する課題、今後の改善計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なイベントを実施するに当たり、既設の電源回路では電力量が不足しており、電力量アップを図る設備を増設する必要がある。 ・ 使用した電気代については商業者に負担してもらシステムづくりが必要。 		

[事例シート]

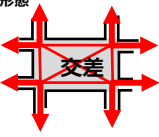


表 1-2-43 広場の概況、使われ方の概観（キャッスルガーデン）

タイプE：動線交差点

広場名 キャッスルガーデン	事例番号 11	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 ● 公共主導 ● 民間主導 利用形態 イベント + 日常利用
3. 広場の概況、使われ方の概観			<p>滞留しやすさや居心地、雰囲気</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ いくつかの領域に分節されており、高さや方向が異なる多くのバリエーションの滞留空間が確保されている。 ⇒ 植栽や水景により、視覚的にも居心地の良い場所をつくっている。 ⇒ 隣接する駅ビルや地下街の飲食店の賑わいが感じられる。
<p>■ 日常時の様子</p> 			<p>運営・管理主体 姫路市 清掃等の日常管理および施設の保守点検は業務委託している。</p> <p>日常の利用形態について 市民・観光客の休憩 特に夏季は子供が水景で遊ぶ光景が見られる。</p> <p>運営に関する課題、今後の改善計画 今後駅前広場全体のグランドオープンが予定されている（2015年4月）。</p>

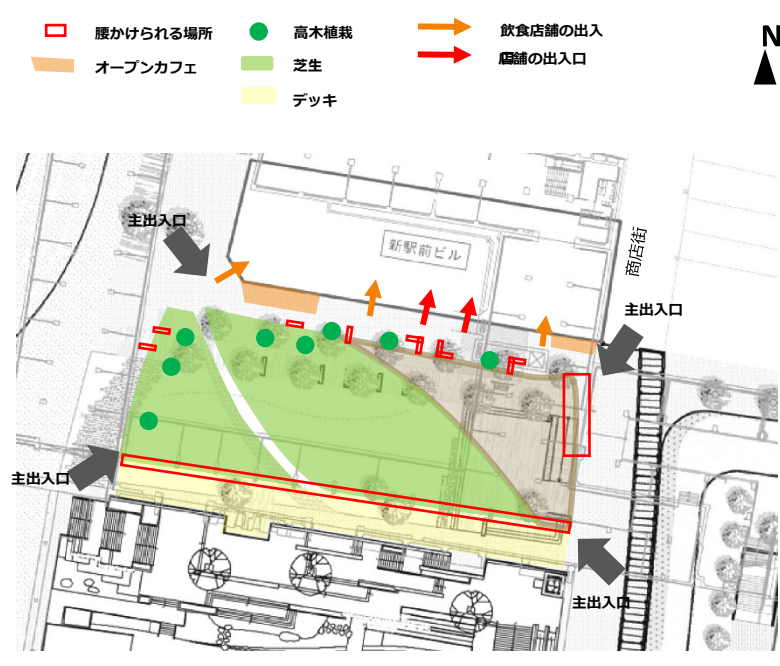
[事例シート]

表 1-2-44 立地・敷地形態上の特性 (キャッスルガーデン北広場)

広場名 キャッスルガーデン北広場	事例番号 12	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	土地の所有者 公	形態 
所在地 姫路市駅前町188番4	整備年 平成26年7月		管理上の位置づけ 市条例広場	人通りポテンシャル 極めて高い
面積 2,100㎡ (うち芝生面積900㎡)	土地所有者 姫路市		立地特性 商業系、駅周辺	
1. 立地、敷地形態上の特性				
 <p>姫路城 所在地 姫路駅 手柄山中央公園</p> <p>広場の立地</p>			整備前の状態 旧駅前広場でタクシー待機場であったスペース 整備のきっかけ、ねらい 関連事業：土地区画整理事業、連続立体交差事業	
 <p>広場周辺の建物用途</p>			① 周辺土地利用の特徴 駅前かつ商店街の入り口周辺であり、商業的な利用が卓越している。 ② 周辺の人通りの特徴 市民の通勤通学、買い物などの日常的な通行のほか、海外を含めて広域からの観光客も多い。 ③ 敷地規模形状の特徴 主街路に短辺が面する長方形の形状。	

タイプE：動線 交差型

表 1-2-45 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (キャッスルガーデン北広場)

広場名 キャッスルガーデン北広場	事例番号 12	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	地表面等の素材 芝生、ウッドデッキ ほか 屋根の有無 なし 敷地内建物等の有無 無し
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			
			① 広場の見つけやすさ 駅前広場の広い範囲から良く見える。また、北東角が商店街の(駅側)入口に面している。 ② 広場としてのわかりやすさ 2面を駅ビルと商業施設に挟まれており、明快な領域性がある。また、芝生やデッキによって、人のための空間であることが容易に認識できる。 ③ 周囲の活動の滲み出し感 北側の商業施設1階には飲食系の店舗が複数あり、オープンカフェ的な座席も容易されている。デッキの南端からは、サンクンガーデンの様子を見下ろすことができる。 ④ 広場への入り込みやすさ 斜めに抜かれる動線を含めて、多くの方向に出られることがわかり、安心して入り込むことができる。

タイプE：動線 交差型

[事例シート]




表 1-2-46 広場の概況、使われ方の概観（キャッスルガーデン北広場）

タイプ：動線交差点型

広場名 キャッスルガーデン北広場	事例番号 12	<input type="radio"/> 詳細調査対象 <input type="radio"/> 行動観測調査対象	<table border="0"> <tr> <td>実質的な管理・運営の主体</td> <td>利用形態</td> </tr> <tr> <td> <input type="radio"/> 公共主導 <input type="radio"/> 民間主導 </td> <td> イベント + 日常利用 </td> </tr> </table>	実質的な管理・運営の主体	利用形態	<input type="radio"/> 公共主導 <input type="radio"/> 民間主導	イベント + 日常利用
実質的な管理・運営の主体	利用形態						
<input type="radio"/> 公共主導 <input type="radio"/> 民間主導	イベント + 日常利用						
3. 広場の概況、使われ方の概観			<p>滞留しやすさや居心地、雰囲気</p> <p>⇒ 広場の周縁部に座れる場所を配置している。ベンチは、飲食店舗沿いの動線に沿って置かれている。また、ウッドデッキの段差は腰かけやすい高さになっている。</p> <p>⇒ 芝生で覆われた広場全体を見渡す、広々とした場所で休憩ができる。</p>				
<p>■ 日常時の様子</p> 			<p>運営・管理主体</p> <p>姫路市 (清掃等の日常管理及び施設の保守点検は業務委託)</p> <p>日常の利用形態について</p> <p>市民・観光客の休憩</p> <p>運営に関する課題、今後の改善計画</p> <p>今後駅前広場全体のグランドオープンが予定されている(2015年4月)。</p>				

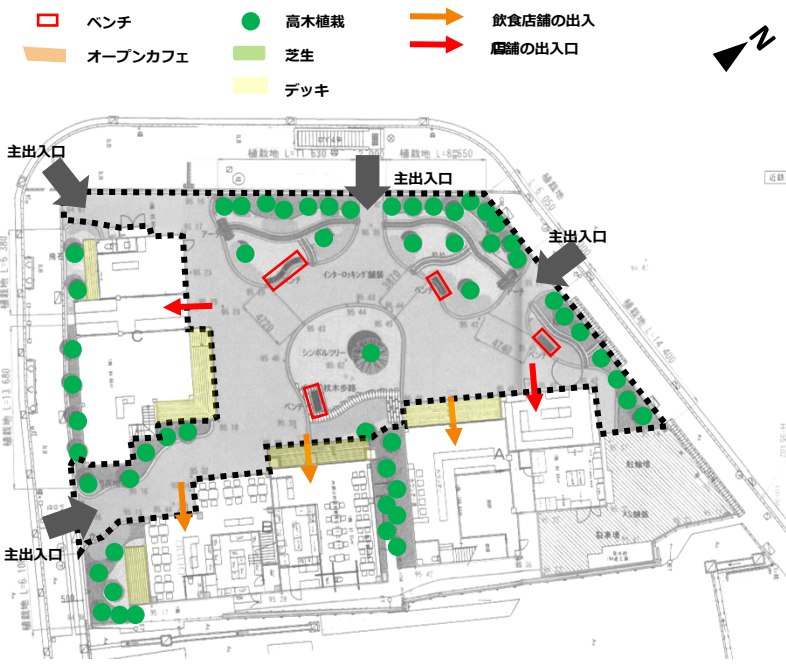
[事例シート]

表 1-2-47 立地・敷地形態上の特性 (niwa+ニワタス)

広場名 niwa+ニワタス	事例番号 13	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	土地の所有者 公	形態 
所在地 滋賀県草津市渋川一丁目1-60	整備年 平成25年10月～平成26年7月		管理上の位置づけ 市有地 (一般財産)	
面積 約1,600㎡	土地所有者 草津市 (所管はまちなか再生課)		立地特性 商業系、駅周辺	人通りポテンシャル 中程度
1. 立地、敷地形態上の特性				
  広場の立地 広場周辺の建物用途			整備前の状態 長年低未利用地となっていた市有地 整備のきっかけ、ねらい 平成25年に草津市中心市街地活性化基本計画を策定し、当該基本計画の第一弾事業として、この土地の整備を実施した。	
			① 周辺土地利用の特徴 駅前広場に面する立地であり、周辺には、大規模な商業施設や再開発ビルなどがある。 ② 周辺の人通りの特徴 駅からの人通り、買い物客など。 ③ 敷地規模形状の特徴 台形の敷地内に、分棟式にテナント区画を配置している。	

タイプ：動線 交差型

表 1-2-48 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (niwa+ニワタス)

広場名 niwa+ニワタス	事例番号 13	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	地表面等の素材 レンガ舗装、芝生
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			屋根の有無 なし
			敷地内建物等の有無 無し
 主出入口 主出入口 主出入口 主出入口			① 広場の見つけやすさ 駅からは見えずデッキの端部から見下ろすような場所にある。 ② 広場としてのわかりやすさ 植栽と店舗等によって周囲を囲まれており、広場として認識しやすい。 ③ 周囲の活動の滲み出し感 敷地内の店舗のうちいくつかは、店員が外に立つなど、積極的に広場への滲み出しをつくる工夫を行っている。 ④ 広場への入り込みやすさ 複数の方向に通り抜けられることが明解であり、安心して入り込むことができる。

タイプ：動線 交差型

[事例シート]


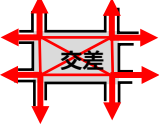
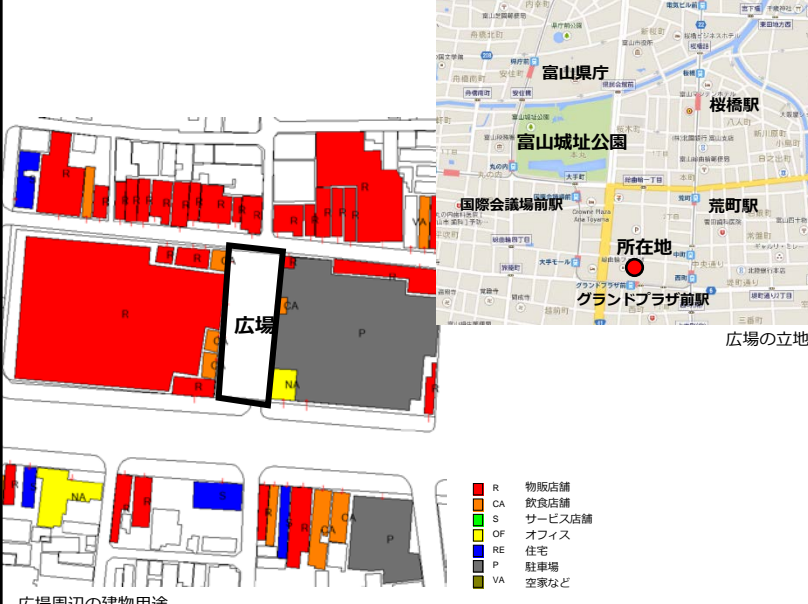
表 1-2-49 広場の概況、使われ方の概観 (niwa+ニワタス)

タイプE: 動線交差点

広場名 niwa+ニワタス	事例番号 13	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 ● 公共主導 ● 民間主導 利用形態 イベント + 日常利用
3. 広場の概況、使われ方の概観			<p>滞留しやすさや居心地、雰囲気</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ ベンチが置かれている場所は、滞留空間としての居心地にはやや難がある。 ⇒ 駅前のペDESTリアンデッキから見下ろされる場所にあり、やや埋没した場所に居る感じがある。今後、植栽が成長すると改善されると思われる。
<p>■ 日常時の様子</p>  <p>■ イベント開催時の様子</p> 			<p>運営・管理主体</p> <p>草津市（緑化広場部分） 草津まちづくり株式会社（店舗部分）</p> <p>日常の利用形態について</p> <p>niwa+（ニワタス）内の店舗での買い物・飲食や、広場での休憩、散歩、駅前での待ち合わせ場所として利用されている。</p> <p>運営に関する課題、今後の改善計画</p> <p>今後、草津川跡地整備の運営にも携わる、まちづくり会社の積極的な活動が期待されている。</p>

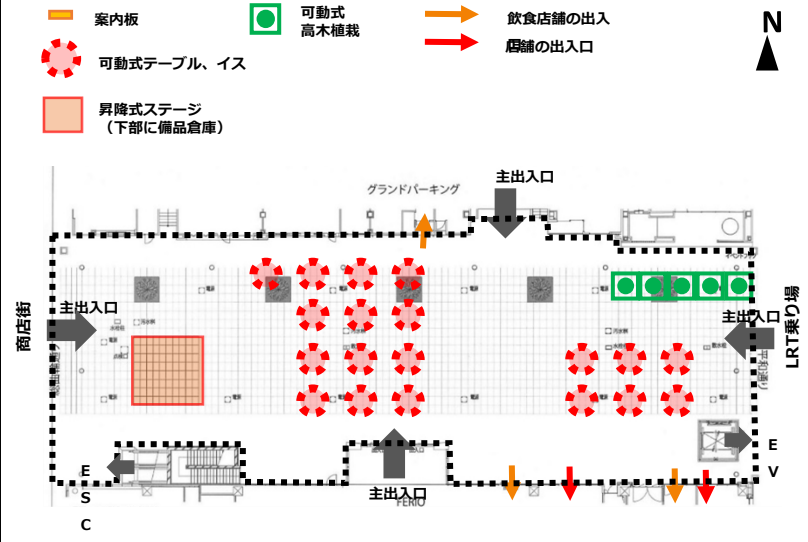
[事例シート]

表 1-2-50 立地・敷地形態上の特性 (富山グランドプラザ)

広場名 富山グランドプラザ	事例番号 14	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	土地の所有者 	形態 
所在地 富山市総曲輪3丁目8番39号 面積 1,400㎡	整備年 平成18年3月～平成19年8月 土地所有者 富山市	管理上の位置づけ 市条例広場 立地特性 商業系 中程度		
1. 立地、敷地形態上の特性				
			整備前の状態 商店街の小規模な店舗等 整備のきっかけ、ねらい 再開発による付け替え道路などの集約によって生まれる空間を市民が集う広場として整備。	
① 周辺土地利用の特徴 富山市の中心市街地における主要商店街の大規模再開発地。			② 周辺の人通りの特徴 商店街の人通りのほか、商業施設(百貨店)から、大規模立体駐車場や電停からの人通りがある。	
③ 敷地規模形状の特徴 主要道路と商店街の間の大型街区の一部を広場化している。				

タイプE: 動線 交差型

表 1-2-51 敷地周囲との関係、広場内の空間構成 (富山グランドプラザ)

広場名 富山グランドプラザ	事例番号 14	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	地表面等の素材 石系 屋根の有無 あり 敷地内建物等の有無 あり(地下駐輪場ESC)
2. 敷地周囲との関係、広場内の空間構成			
			① 広場の見つけやすさ 離れた場所からは視認しづらいが、商店街を歩く人、LRTを利用する人にとっては、容易に見つけられる。
② 広場としてのわかりやすさ その規模や3面が囲まれている領域性から、広場として認識されやすい。			③ 周囲の活動のしみ出し感 店舗出入口が面しているが、営業していないものもあり、あまりつながりを感じられない。
④ 広場への入り込みやすさ 商店街側から、LRT乗り場側からの両方から、気軽に立ち入ることができる。			

タイプE: 動線 交差型

[事例シート]

表 1-2-52 広場の概況、使われ方の概観（富山グランドプラザ）

タイプE：動線交差点

広場名 富山グランドプラザ	事例番号 14	○ 詳細調査対象 行動観測調査対象	実質的な管理・運営の主体 ● 公共主導 ● 民間主導 利用形態 イベント + 日常利用
3. 広場の概況、使われ方の概観			滞留しやすさや居心地、雰囲気 ⇨ 通常時、広い空間に可動式のテーブルとイスが等間隔に並べられている様子は、やさびしい印象を与える。
■ 日常時の様子 			運営・管理主体 (株)まちづくりとやま 日常の利用形態について イベント(飲食、祭り、展示、物産展、スポーツ、パーティ、体験型等)、移動店舗出店、休憩、通過 運営に関する課題、今後の改善計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬期期間の利用促進、営業活動 ・ 自主イベントの多様性、商店街との連携 ・ 運営費用の整理、削減